

鵜沼

久 久 比 奴 末

はまゆうと桜貝と

海光るわが故里

第 1 2 1 号

鵜沼にも「楷の木を」ー その後	1
〈チョットと見てみよう〉 鵜沼松が岡を流れた水路跡	有田 裕一...30
藤沢市指定重要文化財のある 龍口寺	34
Coffee Break	36
溺死諸精霊の碑とニエアルの碑	岡田 哲明...38
夢は空の向こうに ～日本の草分け的スチュワーデス物語～	貴田 里砂...48
中学生が受けたカルチャーショック ～六代目尾上菊五郎～	十代田知三...54
人と人とのつながりは不思議 続編	竹内 広弥...55
『鵜沼雑記』(五) 高瀬邸に来た人々	古志 秋彦...56
鵜沼を巡る千一話より 酢は鎌倉・山本橋・一等国道東海道	渡部 暁...60
活動の記録(令和2年12月～令和3年11月)	67
編集後記	72

『新編相模国風土記稿』(天保12年、1841)に、「鵜沼村久久比奴末牟良」とあり、当時は“くぐいぬま”と呼んでいたことが分かる

鵜沼を語る会 発行

鵜沼にも「楷の木」を ― その後

これまでに寄贈した楷の木がどのように育っているか現状を調べようと、今年の6月例会で「楷の木プロジェクト」を立ち上げ、メンバーを募った。

鵜沼を語る会は2007年～2013年に「学問の木」ともいわれている楷の木を藤沢市内の中学校に記念樹として提供してきたが、苗木入手困難な状況となり2014年以降、中断している。

このプロジェクトでは、「鵜沼にも楷の木を」ということで始めた楷の木の苗木提供と周知活動を今後も継続するかどうかを検討する。

そこでプロジェクト・チームとして以下の2点について9月末を目処に動いた。

- 1) 楷の木苗木の安定的な入手ルートを探す。
- 2) 記念樹として提供した苗木がどのような状況にあるかの楷の木調査を行う。

まず苗木の入手については、滋賀県の園芸会社から購入できることが判明。試みに6月中に2本購入した。送料などを含めた価格は1本当たり3,000円弱。高さが50-60cmの苗木。

楷の木調査は植樹した市内の学校5校へ6月23日～7月6日に訪問し、楷の木の生育ぶりやまわりの環境について調べた。学校訪問のアポは教育経験者の渡部、刀根両会員にお願いしたのでスムーズだった。湘南学園についてはOBの内藤会員にお願いした。7月9日には鵜沼松が岡公園と鵜沼公民館に植樹されている楷の木の樹高、幹回りを測定した。

楷の木調査 (2021/6/23～7/9)

学校	面談者	訪問日	植樹日	樹高	幹回り
鵜沼中学校	小沢 明雄教頭	2021/7/5	2007/5/12	約 10m	77cm
片瀬中学校	池田 裕教頭	2021/7/5	2007/10/17	6.0m	63cm
第一中学校	吉崎 緑教頭	2021/7/6	2007	<左> 2.5m <右> 2.4m	47cm 48cm
六会中学校	大石 由佳教頭	2021/7/1	2010/6/4	2.6m	43cm
湘南学園	山田 明彦学園長	2021/6/23	2013/11	6.4m	25cm
鵜沼松が岡公園		2021/7/9	2007 初夏	3.2m	30cm
鵜沼公民館		2021/7/9	2009/10/31	2.9m	27cm

幹回りは地上 10-30cm で計測

<参加メンバー>

鵜沼中学校：刀根 渡部 大川 田中 竹内
 片瀬中学校：渡部 刀根 田中 竹内
 第一中学校：渡部 刀根 田中 竹内
 六会中学校：渡部 小池 田中 竹内
 湘南学園：内藤 渡部 刀根 田中 岡田 竹内 鈴木利健(鈴木三男吉氏子息)

楷の木に関わってきた経緯

ここで鵠沼を語る会が楷の木について関わってきた経緯を振り返ってみよう。

もともと「楷の木」は昔から日本にあった木ではなく、大正初期に中国の曲阜^{きょくふ}にある孔子の墓所から種子のまま渡来、孔子にちなんで「学問の木」とも呼ばれている。

当会の長老・鈴木三男吉会員は「楷樹物語」（東畑精一著『一卷の人』に収録）を読み、珍中の珍木として裸一貫で渡来した楷の木にすっかり魅了された。そして楷の木の戦前における種子渡来と、それから育てられた木々の戸籍調べに一年の月日をかけ『楷の木巡礼 ― 戦前渡来のルーツを調べて』という短編に纏めた。鈴木会員の口から多くの会員に楷の木のことが語られ、鵠沼を語る会としても興味を持ち始めた。学問の木とも呼ばれる「楷の木」が鵠沼を起点に藤沢の地にも大きく育ててほしいという願いで、鈴木会員を先頭にターゲットを学校に絞り市内の5つの学校に記念樹として楷の木植樹を働きかけた。2007年に藤沢市のいくつかの中学校が、創立60周年を迎えることを捉えてのことである。

◇2007年：鵠沼中学校 片瀬中学校 第一中学校 創立60周年記念として植樹

◇2010年：六会中学校 新校舎落成記念として植樹

◇2013年：湘南学園 創立80周年記念として植樹

また2007年9月に鵠沼中学校の「鵠祭」で、10月には鵠沼地区公民館まつりで楷の木についての展示を行い周知した。こうしたことが功を奏したのか2009年10月31日に行われた鵠沼公民館開設50周年行事の記念樹として楷の木が選ばれ、苗木を寄贈した。翌年の六会中学への新校舎落成記念樹は市教育委員会からの要望であった。もう一か所、2007年初夏に鈴木会員が独自で鵠沼松が岡公園に植樹している。

鈴木三男吉会員は8年前に100歳で天寿を全うされたが、手持ちの楷の木の苗木9本すべてを寄贈した。これら苗木は自分で育苗したものもあるが多くは湯島聖堂で求めた。しかし2009年頃から、それが叶わなくなった。そこで自分たちで楷の木の苗木を育てられないかと、2009年秋に善行の県立総合教育センター敷地内に楷の木の実を集めに行った。

ここには雄木と雌木あわせて7本があり、秋には黒い実が一面、落ちている。発芽させるのはとても難しいと聞かされていたので、長久保公園の専門家にもお願いしたが発芽することはなかった。同公園にも高さ10m近い楷の木が一本あり、鈴木三男吉会員と関わりがあったように聞いていた気がするが、同公園にも記録はなかった。

楷の木とは

孔子ゆかりの中国原産の珍木。今から 2,500 年前、儒学の祖、孔子(紀元前 552～479)は多くの子弟に見守られながら世を去り、山東省曲阜の泗水のほとりに埋葬された。門人たちは 3 年間の喪に服した後、墓所のまわりに中国全土から集めた美しい木々を植えた。今も残る 2 km² (60 万 5,000 坪)の孔林である。

孔子十哲と称された弟子の中で最も師を尊敬してやまなかった子貢は、さらに 3 年、小さな庵にとどまって塚をつくり、楷の木を植えてその地を離れた。元々の樹は枯れたが、「子貢手植楷樹」(子貢手植えの楷)として孔子の墓所に祭られており、今では世代を超えて育った楷の木が数多く強く美しい姿をとどめている。その墓所のまわりには、孔子を慕う弟子や魯の国の人々が集まりはじめ、やがて住み着いた者の家が百あまりであったので孔里と名づけられた。

孔子は 300 年後の漢代中期以後、国家的崇拝の対象となる。しだいに墓域も拡大され、孔里は現在、孔林と呼ばれ孔廟、孔府とともに三孔としてユネスコの世界遺産となっている。

「楷の木」は科挙(中国の隋から清の時代までの官吏登用試験)の合格祈願木となり、歴代の文人が自宅に「楷の木」を植えたことから『学問の木』とも言われるようになった。合格祈願木とされたのは、科挙の合格者に楷で作った笏を与えて名誉を称えたからだと考えられている。また、その杖は「楷杖」として暴を戒めるために用いたとされる。「楷」は中国では模範の木とされており、日本においても書体の「楷書」の語源と言われており、訓は「ノリ」、意味は「つよくまっすぐ」「てほん」となる。また楷の木は儒学の精神を体現するシンボリックな存在としても有名である。

もともと「楷の木」は、日本には存在していなかった。日本に初めて移入されたのは、1915(大正 4)年。当時、農商務省林業試験場の初代場長であった白沢保美博士が中国を訪れ、山東省曲阜の孔子の墓所から「楷の木」の種を採取し、播種、育苗した。その後、日本国内の孔子や儒学にゆかりのある学校—東京・湯島聖堂 3 株(雄)、栃木・足利学校 2 株(雌)、岡山・閑谷学校 2 株(雌)、佐賀・多久聖廟 1 株(雄)—に寄贈された。楷の木は牧野富太郎博士が「孔子木」と命名したが、現在では「楷の木」または「楷樹」と一般的に呼ばれている。風土に合っているためか閑谷学校(岡山県)の楷の木は、大樹に育っている。閑谷学校の中心である聖廟の階段の両脇に二本の木が植えてあり、どちらも幹の太さが 2m、高さ約 13m に達している。孔子にちなんで『学問の木』と呼ばれる「楷の木」の紅葉した落ち葉を、大事そうに持ち帰る受験生も増えている。

白沢保美博士	林学会に不朽の功績を残した研究者で、彼の名を冠した白沢賞は1975年まで存在した。その後、学会規則の変更により林学賞に統一された。
足利学校	平安時代創建と伝えられている日本最古の総合大学。儒学や医学、易学等を教え天文年間(1532～1555年)頃には学徒三千人が全国より集まった。
閑谷学校	備前藩主池田光政が庶民教育を目的に開いた学校で、藩営としては日本最古の庶民学校。創立以来、儒教精神に基づく教育がなされている。
湯島聖堂	江戸時代、儒教は武家の思想・教養として発展した。湯島聖堂はこの中心地で、近代教育発祥の地としての栄誉も担ってきた。

楷の木の特性

楷の木（楷樹 *Pistacia chinensis*）は、ウルシ科の落葉喬木で、中国では楷木、黄連樹、黄連木、台湾では爛心木と呼ばれている。和名は「ナンバンハゼノキ」または「トネリバハゼノキ」といいイチョウと同様、雌株、雄株の区別がある。実をつけるまでに20年もかかり、それまでは雌雄の区別がまったくつかない。また、発芽率は低い(50%程度)が成長力は大きく樹齢は400～500年に達すると言われ、樹高は30mになる。



かつて日本では非常に少ない木として珍重されていた。発芽率の低い楷の木だが、その成長と四季折々に見せる美しい佇まい、特に秋の紅葉は素晴らしいことで有名。葉は先が尖った偶数羽状複葉、花は淡黄色、小さな円錐状で4～5月頃につく。ウルシ科の植物であるが、かぶれることはない。

＊

楷の木について復習し、楷の木の現状調査は各校(植樹日順)各場所毎にまとめた。併せてこれまでの楷の木に関する資料を整理し、日本全国の楷の木所在地を調べてリストにし、後半に掲載した。

楷の木調査 2021 年 6 月～7 月



鵜沼中学校



片瀬中学校



六会中学校



第一中学校



湘南学園



鵜沼松が岡公園



鵜沼公民館



楷の木紅葉 片瀬中学校 2020.11.21

鵜沼中学校 (鵜沼桜が岡4丁目)

鵜沼を語る会は鵜沼中学校に楷の木の苗木2本を寄贈した。2007年5月2日、創立60周年記念として植樹、中庭の1本は14年の間に立派に育っている。



↑ 2007年植樹時
←2021年7月5日測定
樹高 約10m
幹回り 77cm

2021年7月5日(月)午後1時、会員5名で鵜沼中学校を訪問。小沢明雄教頭先生の案内で中庭の楷の木の高さ、幹回りを測定した。

この楷の木は驚くばかりの成長ぶりで、高さは測定竿の長さを超えており、校舎の高さとの比較や非常階段からの目測で約10mとした。地上1.6m辺りで二岐になり左右に大きく広がっている。幹回りは77cm(地上10cm)。正門近くのもう1本は枯死したようだ。

どこの学校も「楷の木」のことについては継承されていない。植樹した頃の楷の木の写真や同校の「鵜祭」で当会が楷の木について展示した資料を、小沢教頭先生に渡し、生徒たちへ楷の木について話して欲しい、と頼んだ。

10月に再訪問すると新しい説明板が取り付けられ、校門脇の掲示板には楷の木の説明と葉が生徒たちの手で貼られていた。「学問の木」とも言われる楷の木の葉を合格祈願に持つ生徒が増えるかもしれない。

ただ残念なことに片方の枝の負担が大きくなり二岐部分に裂け目が生じ、その枝を切り落とすことになった。



新しくなった説明板



孔子ゆかりの『合格祈願木』とある

片瀬中学校 (片瀬山4丁目)

2007年10月に創立60周年の記念植樹として片瀬中学校に楷の木を1本寄贈している。正門を入ると直ぐ左手に楷の木が植樹されている。日当たり抜群な場所なので成長ぶりが見事で、11月ごろにはきれいに紅葉する。



↑ 測定竿で高さを測る

← 2021年7月5日測定

樹高 6m

幹周り 63cm

2021年7月5日(月) 午前10時、片瀬中学校を会員4名で訪問。

楷の木の樹高、幹回りを測定後、池田裕教頭先生と会い楷の木に関する資料を渡し改めて楷の木について話した。鶴沼を語る会が「楷の木を記念樹として寄贈した経緯」「楷の木は孔子ゆかりの中国原産の珍木」「楷という漢字の由来」などを話した。植樹後の成長ぶりはご覧の通り。秋には見事に紅葉するので多くの人が楷の木に関心を払ってくれることを期待して片瀬中学校を辞した。



2008年2月4日



2010年9月3日



2015年5月14日

第一中学校（鵜沼神明5丁目）

2007年に創立60周年記念樹として第一中学校に楷の木の苗木2本を寄贈した。2本とも校舎に近いところに植樹されているが順調に育っている。1本は校長室脇の会議室の窓を開ければ手が届くところにあり、端正な葉を揺るがせていた。



2021年7月6日測定
樹高 2.5m(左) 2.4m(右)
幹回り 47cm(左) 48cm(右)

2021年7月6日（火）午前10時、植樹校最後の訪問となった第一中学校を会員4名で訪ねた。

校舎玄関を挟んで左右に1本ずつ植樹されている。根元近くの白い柱に「かいの木」の文字があるが、以前あった寄贈者の名前の文字「鈴木…」は消えていた。



2010年9月3日の楷の木（左）（右）

↑2019年6月2日

お会いした吉崎緑教頭先生は楷の木植樹のことを良くご存じで、話はスムーズに進んだ。長い年月が過ぎると物事の継承が難しいものだが第一中学校の楷の木についての認識は高かったので、学校訪問の締めとしては嬉しい限りであった。

六会中学校（亀井野 1000）

2010 年 6 月 4 日の新校舎落成式にあわせて六会中学校に楷ノ木の苗木 1 本を寄贈した。落成式当日、生徒会のメンバーによって楷の木が記念植樹された。

11 年の時を経て、楷の木の成長ぶりを見てきた。



2021 年 7 月 1 日(木)午前 10 時、会員 4 名で六会中学校を訪問。植樹してから 11 年の歳月が流れている。幸い不安定な天候の雨はやみ、大石由佳教頭先生の出迎えを受ける。吹き抜けのスペースにはピアノが置かれており、校内は新築のままで気持ち良い。

植樹時に設置した説明板は見渡らなかったので楷の木についての資料を渡し、記念樹として楷の木を寄贈した経緯などを説明した。

当会が 2009 年 10 月に鶴沼公民館開設 50 年の記念樹として楷の木を提供したことや公民館まつりで楷の木の展示をしたことで、市の教育委員会が楷の木について知るところとなった。翌年、教育委員会から六会中学校の新校舎落成記念として苗木を提供してほしい旨、依頼があった。

帰り際に樹高、幹回りを測定、直径 3cm 位のところで測定されており、思ったほど高くはなっていなかった。



↑ 2010 年 6 月 4 日 植樹



← 2021 年 7 月 1 日測定
樹高 2.6m(剪定済み)
幹回り 43cm



帰り際に雨、傘をさして高さを測定



2010 年 植樹前の苗木

湘南学園（鵠沼松が岡 4 丁目）

2013 年 11 月、創立 80 周年を記念して建てられた記念館前に楷の木が記念樹として植樹された。「鵠沼にも楷の木を」と先頭を切って活動していた鈴木三男吉会員の手持ちの最後の一本で、湘南学園に植樹するのが生前の願いだった。



テラスハウス前の記念植樹

2021 年 6 月 23 日測定

樹高 6.4m

幹回り 25cm

2021 年 6 月 23 日午前 10 時、湘南学園を訪問。

会員 6 名と鈴木三男吉さんのご子息・利健さんの 7 名。まず楷の木の成長ぶりを調査し、その後、創立 80 周年記念館のカフェテリアでコーヒーを味わいながら山田明彦学園長の話聞く。楷の木の樹高や幹回りの測定をご覧になっていた事務局の青木斉子さんが、これらの測定値と写真を入れた資料を直ちに作り、話の席で配られたので皆びっくり、そして感謝。

2013 年、鈴木三男吉さんの楷の木の苗木が鵠沼 6 自治会を経て湘南学園 80 周年記念樹として寄贈された。植樹されたのは 11 月、その数か月前に鈴木三男吉さんが逝去されたのは至極残念であるが、その思いは十分継承されている。

山田学園長は湘南学園の HP の「学園長通信」(7 月 7 日付)で私どもの楷の木調査訪問のことを取り上げており、そこには楷の木が創立 80 周年記念樹として寄贈された経緯、楷の木は中国原産の木で楷書の語源になったことにも触れておられる。HP を通して湘南学園の OB、父兄、近隣の人たちに楷の木を知っていただきたいという学園長の心配りに、私たち訪れた会員だけでなく鈴木三男吉さんもきっと喜ばれていることだろう。

鵜沼公民館（鵜沼海岸2丁目）

鵜沼公民館は2009年10月31日に開設50周年記念式典を開催、記念樹として鵜沼を語る会が提供した楷の木の苗木を植樹。市関係者、子ども達、公民館に関係の深い人たちが出席。当会を代表して鈴木三男吉さんが鍬入れ式に参加。



記念植樹 2009年10月31日



2021年7月9日測定 ↑

樹高 2.9m

幹回り 27cm

植樹の時は周りが広々していたが今は桜の枝が楷の木を覆い、環境は良くない。山口秀俊・鵜沼公民館長に現状を見てもらい、9月にまずは桜の枝を3本切って貰った。



植樹後、鈴木三男吉さんを囲み出席者全員で記念撮影

鵜沼松が岡公園（鵜沼松が岡 5 丁目）

鵜沼の原風景を今もとどめている鵜沼松が岡公園。ここは村川堅固と長男 堅太郎の 2 代の西洋史家が所有していた別荘地だった。この一角に楷の木がある。鈴木三男吉さんが、独自で 2007 年初夏に植樹したものと聞いている。



2021 年 7 月 9 日測定

樹高 3.2m

幹回り 30cm



↑ 2010 年 9 月 3 日



↑ 2021 年 4 月 9 日

上の 2010 年と同じ角度での撮影だが枝ぶりが若干異なるように見える。

植樹は 2007 年初夏。日当たり抜群のロケーションだが、その割に成長していない。植樹当時は水遣りに頻繁に通っていたようだが、詳しいことは分からない。途中で回りの囲い棒を切断しているようだ。他の場所の楷の木の葉と比べると少し丸みを帯びている。楷の木の葉にも若干の違いがあるのだろうか。

楷の木プロジェクトに参加して

▼ 鈴木三男吉さんが提唱していた学問の木「鵜沼にも楷の木を」のその後を調査しようとの呼び掛けに"面白そう"と手を挙げた。楷の木プロジェクトの立ち上げである。

私には鵜沼中学校開校 60 周年記念植樹に立ち会った思い出がある。10 数年前（2007 年）たまたま学校評議員として招待された。セレモニーは中庭で行われ、楷の木の細い苗木、記憶では 1m ぐらいのものが植樹された。見かけはうるしに似ていた。その後、学校の行事で訪問すると必ず樹木に挨拶。正門右手に植えられたもう一本はいつの間に枯れてしまったが、中庭の一本が校舎の 2 階に届くほどになっていた。

なんと今回訪問したら校舎 3 階より高くなっていて目測 10m。大樹だ。爽やかな風が吹き抜けた。

楷の木は神奈川県立総合教育センター（善行）創設時に「学問の木」として 7 本植樹されていて巨木になっているのを知っていた。鈴木さんと会員何人かと種子を貰いに行き発芽を試みたが失敗。センターの理科研究主事や長久保公園の植物達人にも依頼したが勿論、失敗。私も 3 年間、試みたがあきらめた。

さて、プロジェクトチームは分担し、私は調査のため 3 校にアポを取る役目を引き受けた。「学校に記念樹として植樹された『楷の木』について調査させてください。記録や何でも情報の提供と現状の撮影をさせてください」 どの学校もコロナ禍で忙しい中、管理職の先生方が訪問対応に応じてくださった。電話に対応してくださった教職員の方々の中でお一人だけ『楷の木』が植樹されている場所を知っておられた。「ご案内しますよ」と嬉しそうに応答してくださった声にはほっこり。

学校にとって過去 10 年間は教職員の異動があり、特に管理職の方々に『楷の木』のことが引き継がれていないのが現実。学校にはご迷惑をお掛けしたが、改めて『楷の木』を知っていただくよい機会を設定したと思う。

今回訪問した学校には当会が蓄積してきた資料から参考となりそうなものを竹内さんが抜粋し届け、会誌 121 号に調査結果を掲載することを伝えた。訪問までのやり取り、竹内さん手作りの新計測器を携えワンチームで楽しい 5 校訪問調査ができた。湘洋中・鵜沼小・鵜洋小・鵜南小にチャンスがあれば『鵜沼にも楷の木を』プロジェクトチームが起動できるようにスタンバイすることを夢見ながら。（記 渡部 かほり）

▼ 楷の木についてほとんど知識のないまま、プロジェクトに参加した。当初、鵜沼公民館に植樹された楷の木にもこの程度の木かという印象しか持たなかった。

しかし、楷の木の藤沢での植樹に関しては亡くなられた会員の並々ならぬ情熱があったことを知った。楷の木はもともと日本にはなく、孔子と関連のある歴史ある木で

日本にもたらされた。

鵜沼中学校に10年ほど前に植樹された楷の木を見たが、よく成長し、校舎の2階を超えるくらいの高さになっていた。これは大木になると実感した。葉もよく茂り、いい緑陰を作りそうである。この下にベンチを置いて涼みたいものだ。また、秋にはきれいに紅葉するようで大切に育ててほしいと思った。

生徒に学問の神様と関連がある木だと宣伝すれば、受験成功の木として崇められるかもしれない。湯島聖堂の楷の木も中国からもたらされ大樹になっているという。また全国の孔子廟やその他にも楷の木はあり、想像以上に広がっているようだ。

ユーチューブで中国の孔林の動画をみたが広大な敷地に全国から集められた木々が繁茂し、巨大な森林を形成していた。孔子廟の裏に弟子の子貢が植えたと言われる楷の木の古木が保存されていた。すでに枯れて空洞のある木である。時空を超えて日本に渡った楷の木。その木を藤沢の地で育てようと言われた元会員の遺志を継ぎ、発展させようというプロジェクトを今後も大事にしたいものだ。 (記 大川 久)

▼ 湘南学園に植樹されたのは鈴木三男吉さんが亡くなられた後のことなので、調査に参加しました。鈴木さんが育てておられた最後の1本だそうです。学園への植樹はご遺志をご遺族が実行されたもので、説明板によると学園の通学エリアに当たる6自治会からの寄贈という形をとっておられ「シャイだった三男吉さんらしい」と思いました。

カキノキが全国にどのくらい分布しているかが気になりネット調査したものが後半のリストです。神奈川県と岡山県が多いことがわかりました。 (記 岡田 哲明)

▼ 私は小池会員のご紹介により本年4月の例会にオブザーバーとして出席し、5月の定期総会にて正会員として入会しました。が、私としては6月8日の例会を初めての参加として臨みましたので、その席でまさかこの「楷の木プロジェクト」のメンバーに選出されるとは思いもよりませんでした。しかしながら、当会の活動状況を知るのにはとてもよいチャンスかなと思い取り敢えず参画してみることにしました。

そこで、まず楷の木について知らねばと思いインターネットで検索し、また会員の方から当会とこの木の記念植樹についてのかかわりを教えて頂き、その経緯が分かるにつれてとても興味が湧いてきました。そして、当プロジェクトの目的が“中断していた「楷の木」の紹介と植樹の勧めの継続開始”で、その活動内容は8年～14年前に植えた市内の5中学校を訪ねて、その成長ぶりと各校の認識を調査することだと知るにいたり、できるだけ参加してみたいという気持ちになりました。

最初に訪問した湘南学園では山田学園長自らがご案内、ご説明して頂きましたし、

その後に訪れた市立の各中学でも教頭先生の方々がとても丁寧に対応してくれ嬉しくなりました。また樹木の計測にあたっては竹内会員の工夫のきいた計測器具を使いながら木の高さと幹回りを測ることができました。

6月23日から7月6日のわずかな期間でしたが、一緒に訪問したプロジェクトのメンバーの方々とは道中、非常に会話が弾みとても楽しかったのでこのプロジェクトに参加して改めてよかったと思いました。（記 田中 雄一）

▼ ♪この～木なんの木 気になる木…♪

シンメトリックな巨大な編み笠のように伸びた枝葉。楷の木プロジェクトに参加し、コロナ禍に私が学校評議員をしている鶴沼中学校を訪れることになるなんて。細くて小さめと聞いていたが、おっと驚き！ 枝にブランコ下げようか、シートを敷いて楽しいおしゃべりしようか。何と素敵な木陰。生徒達が2、3人来て語らう…なんて考えたら心躍る。正に楷の木、学問の木。幹の太さと高さを測るのだが会員特製の計測器では容易に測れず、う～ん、非常階段に昇って見たら？ 即試す。およそ10m、三階の窓迄伸びている。涼しげな大きな木陰の下で鶴中生を思い浮かべ帰途に就く。

片瀬中学校：門を入ると左手。綺麗に刈り込まれた木々の一番道路側に名前が表示されていた。周りにうまく溶け込み、玄関までのアプローチの一端を担っていた。

第一中学校：小まめに手入れされた花壇を見ながら玄関へ。両サイドに愛らしい門扉のように立っている。外部の方々が出入りする部屋に小さな木陰。話の種になることを願って辞す。

湘南学園：関わりの深さから熱い想いをお話いただいた。日当たりのよい中庭にすくすくと育っていた。都会的な姿態で。

私の楷の木チェック紀行は、上記の4校。不思議なほど雨にあたらず竹内会員の車に拾っていただき感謝。今後、学校の子供達と素敵な関わりができますよう。

各校の先生方、お忙しい中、有難うございました。（記 刀根 恵子）

▼「楷の木のこと、よろしく」とお元気だった鈴木三男吉さんから言われ、植樹したいくつかの学校の近くを通る際に、その成長ぶりを見てきた。今回すべての場所をまわり大きさに差があるものの皆、元気に育っていることが分かった。「楷の木プロジェクト」を立ち上げ、会員のみならず植樹した学校、鶴沼公民館の方たちの楷の木への新たな理解が得られたことが良かった。今後、他校への楷の木植樹の勧めをどうするかなど「楷の木プロジェクト」は、これからもまだ続きそうだ。（記 竹内 広弥）

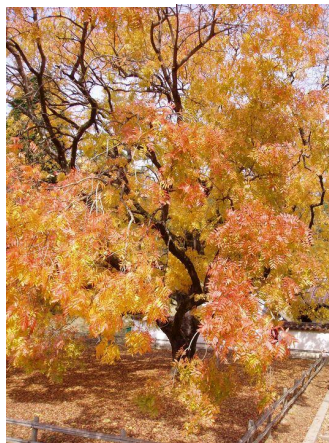
「楷の木」のあるところ



足利学校



湯島聖堂



閑谷学校



多久聖廟



北浦和公園



乃木神社



県立総合教育センター



金沢山称名寺



麗澤大学



東京都市大学横浜キャンパス



第一生命大井本社グランド(現 BIOTOPEA)



BIOTOPEA Field (旧第一生命大井本社グランド) 自然交配の2世、3世を含め70本余り

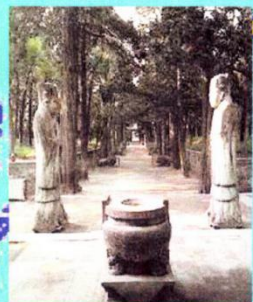


BIOTOPEA marche 脇



長久保公園 正門脇

戦前伝来の 楷ノ木の 伝播と分布



鈴木三男吉：『楷ノ木—鶴沼にも』(会誌「鶴沼」第95号)による

日本全国の楷の木調査

- 凡例 □：鈴木三男吉氏が苗木を寄贈されたもの
◇：鈴木三男吉著「楷の木巡礼」記載、巡礼調査された処
◇：「楷の木巡礼」に記載はあるが、巡礼調査を果せなかった処
◆：上記以外のもの（その他の情報およびネット検索による）

神奈川県

- 藤沢市立鵠沼中学校：藤沢市鵠沼桜が岡 4-3
校内、中庭…1本（2本寄贈、内1本は正門右手に植樹したが枯死）
2007年5月2日、創立60周年記念植樹、鵠沼を語る会として寄贈
- 藤沢市立片瀬中学校：藤沢市片瀬山 4-1
校内正門左側…1本
2007年10月17日、創立60周年記念植樹、鵠沼を語る会として寄贈
- 藤沢市立第一中学校：藤沢市鵠沼神明 5-10
校内…2本
2007年、創立60周年記念植樹、鵠沼を語る会として寄贈
- 藤沢市立六会中学校：藤沢市亀井野 1000
校内…1本
2010年6月4日、新校舎完成記念植樹、鵠沼を語る会として寄贈
- 学校法人 湘南学園：藤沢市鵠沼松が岡 4-1
園内 創立80周年記念館前…1本
2013年11月 創立80周年記念植樹。同年夏、逝去された鈴木三男吉氏の遺志によりご遺族が近隣6自治会（一照会・鵠沼藤が谷会・鵠南みどり会・五友会・東鵠睦会・ニコニコ自治会）として寄贈
- 鵠沼松が岡公園：藤沢市鵠沼松が岡 5-8
園内東…1本 鈴木三男吉氏が自ら植樹
2007年初夏
- 鵠沼公民館(市民センター)：藤沢市鵠沼海岸 2-10
構内、新館西南…1本
2009年10月31日、鵠沼公民館開設50周年記念植樹、鵠沼を語る会として寄贈
- ◇ 金沢山称名寺：横浜市金沢区金沢町 212

境内、阿字ヶ池脇…1本（雌木）

1937年大村興道氏が曲阜から種を持ち帰ったもの

◇ 鈴木恒五郎（旧・鈴木吉五郎）邸：横浜市金沢区富岡東 5-5

駐車場の一角…1本（雄木）

昭和の初め小石川植物園の小松直枝主任から贈られたとされる。この木の雄花を金沢文庫称名寺の雌花と交配させたものが各地へ

◇ ビオトピア BIOTOPIA（旧第一生命本社）：足柄上郡大井町山田 300

構内および Field(グラウンド)、第一生命社長矢野一郎により植樹

説明板には 70 本余とあるが、ほとんどがグラウンド縁に植樹されている

◇ 神奈川県立総合教育センター：藤沢市善行 7-1

構内…7本（雌木 2 本、雄木 5 本）

当時の鈴木教育長が矢野一郎氏の協力を得て入手、植栽した

◇ 藤沢市長久保公園：藤沢市辻堂太平台 2-13

正門入ってすぐ左側…1本 「カイノキ」の説明板が付けてある

植樹の経緯を訊ねたが、記録なく不明

◆ 東京都市大学(旧武蔵工業大学) 横浜キャンパス：横浜市都筑区牛久保西 3-3

校内テニスコート周辺並木状…数十本

1997 年 3 月環境情報学部開設記念植樹

いきさつ〈横浜キャンパス同窓会「楷の木会」HP より要約〉

「横浜キャンパスには楷の木がコートの周辺や遊歩道沿いに数十本育っています。中国山東省曲阜にある孔子の墓、孔林の楷の木から採れた種を曲阜市から贈られた山浦啓栄氏（曲阜市名誉市民）が島田照男氏の協力を得て育てられた若木を 1997 年 3 月学部開設記念として、小沼通二（こぬまみちじ）初代学部長から寄贈されました。日本でこれほど多くの楷の木がある所は他にありません。」

なお、山浦氏と島田氏はともに小沼学部長の中学時代の友人との事です。

◆ こどもの国：横浜市青葉区奈良町 700

平成（旧皇太子）記念館（1972 年完成）脇…3 本

1999 年、平成天皇在位 10 周年記念植樹

2009 年春、平成天皇ご成婚 50 周年記念植樹

2009 年秋、平成天皇在位 20 周年記念植樹

こどもの国は 1959 年、平成天皇と美智子妃殿下ご結婚に際し国民から

の祝金を「子供のための施設に使って欲しい」と提供され中央児童福祉審議会が米軍田奈弾薬庫跡地の返還を受け 1962 年着工 1965 年開園

東京都

□ 大学セミナーハウス：八王子市下柚木 1987-1

構内…1 本

1994 年 5 月 26 日、大学セミナーハウス開館記念植樹

鈴木三男吉氏の苗木寄贈、第 1 号

「（前略）さくら館から講堂へ向かう左手に一本の楷の木があります。白梅短期大学からの記念植樹です。毎年夏になると『また、楷の木に逢いに来ました』と鈴木三男吉先生が楷の木の成長ぶりを見に来られました。（中略）先生には日本全国の「楷の木巡礼-戦前渡来の戸籍を調べて」の記録文もあります。鈴木先生は千人会会員として毎年来館されて会費を直接お払いいただいた後、楷の木に逢って帰られるのか恒例でした。残念なことに 2011 年の夏、ご子息を伴って来館されたのが最後となり、2013 年 7 月に 100 歳で逝去されました。（後略）」

※ 大学セミナーハウス運営支援団体「千人会」HP セミナーハウスニュース 2014 年 12 月発行「楷の木と鈴木三男吉先生」より抜粋

◇ 湯島聖堂：文京区湯島 1-4

構内…5 本

杏壇門の左右 3 本（雄木）は 1915 年白澤博士が曲阜から種を持ち帰り育苗し、1922 年移植したもの。2 本（雌雄各 1 本）は 1937 年大村興道氏が曲阜から種を持ち帰ったもの

構内の「楷樹の由来」の説明板の文面

『楷は曲阜にある孔子の墓所に植えられている名木で、初め子貢が植えたと伝えられ今日まで植え継がれてきている。枝や葉が整然としているので書道でいう楷書の語源になったともいわれている。わが国に渡来したのは大正四年林学博士白澤保美氏が曲阜から種子を持ち帰り東京目黒の農商務省林業試験場で苗に仕立てたのが最初である。これらの苗は当聖廟をはじめ儒学に関係の深い所に頒ち植えられた。その後も数氏が持ち帰って苗を作ったが、性来雌雄異株であるうえ花が咲くまで三十年位もかかるため、わが国で種子を得る事は出来なかったが幸いにして数年前から三カ所で結実を見るに至ったので今後は次第に孫苗が増えてゆ

くと思われる。中国では殆ど全土に生育し黄連木、黄連茶その他の別名も多く、秋の黄葉が美しいという台湾では瀾心木と呼ばれている。牧野富太郎博士はこれに孔子木と命名された。孔子と楷とは離すことが出来ないものとなっているが、特に当廟にあるものは曲阜の樹の正子に当る聖木であることをここに記して世に伝える。

昭和四十四年己酉秋日

矢野一郎 文

平成二十年戊子秋日

松川玉堂 書 』

◇ 渋谷資料館：北区西ヶ原 2-16

公園内…4 本

飛鳥山公園内に、渋谷資料館、青淵文庫、晩香廬があり、その内のどこにあるか分らない。横浜の鈴木吉五郎邸の雄花と金沢文庫称名寺雌花と交配 1965 年生まれたもの

◇ 蒼梧ハイツ（旧矢野一郎邸）：大田区田園調布 3-39

邸内…1 本

矢野一郎が父恒太郎（大森）から移植したものは枯死。のち若木を植樹、枯死した木からテーブルを作り世田谷烏山矢野記念館に保存されている

◇ 乃木神社：港区赤坂 8-11

境内…1 本

1915 年白澤保美博士が種子を持ち帰り育苗したもの

◇ 東郷神社：渋谷区神宮前 1-5

境内…1 本

大村興道氏が寄贈

◇ 小石川植物園：文京区白山 3-7

園内…1 本

同植物園の記録では松崎直枝主任が 1927 年クリミヤ半島ニキタ植物園から持ち帰った種を育苗したものと、1942 年中国曲阜から持ち帰ったものと 2 本あるはずが 1 本しかなく、そのどちらかは不明

◇ 新宿御苑：新宿区内藤町 11

苑内…1 本

松崎主任から寄贈されたが現存しない。

◇ 林試の森公園サービスセンター（旧目黒林業試験所）：品川区小山台 2-6

場内…4 本

所長白澤保美博士が最初に育苗された場所

◇ 井の頭自然文化園：武蔵野市御殿山 1-17

園内…1 本

1915 年白澤博士が種子を持ち帰り育苗したもの

◇ 多磨霊園：府中市多磨町 4-628

霊園内…1 本

岩村家、稲垣家の墓地

◆ 国会議事堂：千代田区永田町 1-7

前庭…2 本

1997 年、日本国憲法施行 50 周年記念植樹

埼玉県

◇ 県立浦和北公園（旧制浦和高校）：さいたま市浦和区常盤 9-30

園内旧制浦高生の銅像（彫刻家本郷新の作品）の脇…1 本

1921 年頃、浦高教師竹村昌次氏が曲阜から種を持ち帰り白澤博士の林業試験場で播種育成してもらったものといわれる

◆ 久喜市立久喜小学校：久喜市本町 2-5

グラウンド脇…1 本

公益社団法人国土緑化推進機構「学校の緑を増やす助成金」を受け、創立 150 年記念事業として 2021 年 3 月、閑谷学校の楷の木の遺伝子を受け継ぐ若木（クローン苗木？）を植樹

千葉県

◇ 麗澤大学（旧広池学園）：柏市光が丘 2-1

構内…4 本（2 本雄木、2 本雌木）+？（子孫が育っている）

1946 年中国から贈られた種から 5 本発芽したうちの 4 本。1 本は松戸市北小金の斎藤家(学校用地取得に協力)に贈られた

◆ 千葉経済大学：千葉市稲毛区轟町 3-59

構内、総合図書館前…1 本（または数本の寄せ植え）

1986 年、佐久間理事長が長野士郎岡山県知事に頼んで岡山三徳園から入手した。親木は閑谷学校の楷の木

栃木県

◇ 足利学校：足利市昌平町 2338

学校門入って左、遺蹟図書館前…1 本

1915 年白川博士が曲阜から種子を持参し 7 年育苗 1922 年に湯島聖堂、
多久聖廟、閑谷学校と同時に配植されたもの

茨城県

◆ 県立下妻第一高等学校：下妻市下妻乙 226-1

裏門近く…1 本

植えられた経緯は不明

福島県

◇ 安養寺（浄土宗）：いわき市平下平窪字山根 22

境内…1 本あった

大村興道氏が種を安養寺住職の兄に贈り、檀家の翠香園が播種育成した
もの。金沢文庫称名寺のものと同種

※ 平成のはじめ頃の台風で倒れ現在はない（2021 年 6 月電話確認）

◆ 会津藩校日新館：会津若松市河東町南高野字高塚山 10

敷地内…1 本

1985 年、復元るとき植えられた

◆ 福島大学：福島市金谷川 1

校内…1 本

卒業生、佐藤英雄氏がシンボルツリーになればと寄贈

宮城県

◆ 石巻専修大学：石巻市南境新水戸 1

校内 小倉保巳先生顕彰碑脇…1 本

2018 年 6 月石巻西ロータリークラブより寄贈

秋田県

◆ 角館歴史村・青柳家住宅：仙北市角館町表町下丁 3

庭内…1 本

日本北限の楷の木

静岡県

◇ 静岡大学教育学部附属浜松中学校：浜松市中区布橋 3-2

敷地内…1 本

1940 年浅見与七博士が種子を持ち帰ったもの、東大農学部勤務して
いた野原茂六氏が寄贈を受け、水戸高校へ転勤と共に移植、さらに定年
後、故郷浜松に移されたもの。東畑精一郎のもの（枯死）と兄弟

愛知県

- ◆ 東山動植物園：名古屋市千種区東山元町 3-70

植物園内…1 本

由緒不明

岐阜県

- ◆ 岩村藩校知新館：恵那市岩村町 133-3

正門前…1 本

1992 年 3 月、山崎道夫先生の尽力で湯島聖堂の苗木を植樹

京都府

- ◆ 生身天満宮（いきみてんまんぐう）：南丹市園部町美園町 1-67

境内…1 本

某大学の博士が種を持ち帰り育てた 7 本のうちの 1 本、1990 年植樹

大阪府

- ◆ 大阪大学基礎工学部：豊中市待兼山町 1-3

国際棟前庭園…2 本(一対)

2005 年 5 月 26 日、学部創設 45 周年記念植樹

- ◆ 道明寺天満宮：藤井寺市道明寺 1-16

境内大成殿前…1 本

1986 年植樹

- ◆ 沢之町公園：大阪市住吉区南住吉 3-15

公園入口…2 本

2010 年、区役所・区民ホール・図書館・沢之町公園完成記念植樹

住吉区民のシンボルツリー、親木は閑谷学校のもの

兵庫県

- ◆ 神戸芸術工科大学：神戸市西区学園西町 8-1

学園内…1 本

シンボルツリーとして植樹

- ◆ 神戸森林植物園：神戸市北区山田町上谷上字長尾 1-2

園内…4 本

1 本植えのものと 3 本寄せ植えになったものとある

岡山県

- ◇ 岡山藩校閑谷学校：備前市閑谷 784

構内…2本

1915年、白澤博士が持ち帰ったもの、もっとも紅葉が美しいといわれている。

2015年3月15日付け産経新聞、中国・四国・岡山地方版の記事

「最近、樹勢が衰えて来ているというので森林総合研究所林木育種センター関西育種場（勝央町）が、クローン苗木増殖に取り組み2014年2月、長さ20cmの枝を36本採取し、台木に接ぎ木して20本がクローン再生に成功した。うち4本が里帰りする」

◆ 岡山県庁：岡山市北区内山下 2-4

構内…1本

閑谷学校の種から育ったもの

◆ 三徳園（県立青少年農林文化センター）：岡山市東区竹原 505

園内…多数本

三徳園は第一生命創始者矢野恒太（一郎の父）が作った三徳塾が前身
閑谷学校の種から育ったものと1本は矢野一郎氏が寄付したもの

◆ 後楽園：岡山市北区後楽園 1-5

園内：1本？

閑谷学校の種から育ったもの、後楽園は日本三大庭園の一つ

◆ 岡山大学：岡山市北区津島中 1-1

図書館前、農学部など、構内…4本

閑谷学校の種から育ったもの、1971年植樹（守屋晃三氏 you tube）

◆ 岡山県立大学：総社市窪木 111

構内各所…30本ほど

1994年3月、開学記念に三徳園が育苗したもの（守屋晃三氏 you tube）

◆ 半田山植物園：岡山市北区法界院 3-1

園内…2本

由緒不明（守屋晃三氏 you tube）

◆ 総社市立総社北小学校：総社市泉 2-2

構内…1本

由緒不明（守屋晃三氏 you tube）

◆ 山陽新聞社ビル：岡山市北区柳町 2-1

さん太ホール前…2本

由緒不明。

◆ 川崎医科大学付属病院：倉敷市松島 577

構内…1 本

由緒不明

◆ 井原市立田中美術館・田中苑：井原市井原町 315

田中苑内…1 本

1976 年、井原出身の馬越恭平の孫が中国から持ち帰った苗を植樹した。

田中美術館は日本を代表する彫刻家平櫛田中（ひらぐし でんちゅう）の作品を集めた美術館で、田中が兄事した山崎朝雲作「馬越恭平像」がある

馬越恭平はビール王といわれた実業家、鶴沼に別荘があった

1983 年、市制 30 年記念に市内各小学校にも植樹した

◆ 株式会社 森本工務店：倉敷市玉島勇崎 1026

敷地入り口…2 本

1998 年、新社屋に移転時、会長が植樹した

広島県

◆ 栗原小学校：尾道市西則末町 11-16

校庭…1 本

由緒不明。

山口県

◆ 吉香公園：岩国市横山 2-6

園内噴水の近く…1 本

吉香公園はもと岩国藩主吉川家の居館を 1968 年公園にした。楷の木は

閑谷学校から種子をもらい受け育てたもの

◆ ときわ公園：宇部市則貞 3-4

園内…1 本

由緒不明。

◆ 明倫学舎（旧萩藩校明倫館）：萩市江向 602

構内…1 本

1985 年に植えられた

香川県

◆ 大手前丸亀中学校・高等学校：丸亀市大手町 1-6

正門前…1 本

由緒不明。

愛媛県

◆ 万葉苑：松山市御幸 1-476

苑内…1 本

1999 年 12 月、福岡市の山田悟氏から寄贈された

福岡県

◆ 大宰府学校院跡：太宰府市観世音寺 4-1

1997 年植樹…2 本

2015 年 8 月 25 日の台風のとき地上 1 m で折れたが復活中

◆ 筑前国分寺跡：太宰府市国分 4-13

七重塔の礎石のそば…1 本

由緒不明。

◆ 宝満宮竈門（かまど）神社：太宰府市内山 883

境内…1 本

まだ若木である。「さいかいのき」として縁起を担ぐ

佐賀県

◇ 多久聖廟：多久市多久町 1843-3

境内…1 本

1915 年白澤保美博士が種子を持ち帰り育苗したものを 1922 年に鹿児島
の第七高等学校造士館に贈られた 2 本のうちの 1 本を 1925 年多久聖廟
に移した。鹿児島のは戦災で焼失

熊本県

◇ 熊本大学(旧 医学部付属)病院：熊本市中央区本荘 1-1

構内…1 本(戦前からの楷の木)

楷の木プロジェクト・メンバー

大川 久 小池 清志 田中 雄一 刀根 恵子 渡部 かほり 竹内 広弥
岡田 哲明(日本全国の楷の木調査協力)

おわりに

今回の楷の木プロジェクトを進めるにあたり、鶴沼を語る会の重鎮であった故鈴木三男吉さんへの思いが一層強いものになりました。「鶴沼にも楷の木を」と提唱され、鶴沼を中心とした学校や公民館に楷の木を記念植樹することに尽力されました。それから十数年、これらの楷の木が立派に育っていることが今回の調査で明らかになったことを、まずは鈴木三男吉さんに報告したいと思います。

鈴木三男吉さんは日本評論社社長を退任された1973年に東京・小平市の学校法人白梅学園の理事長に就任され、20年もの間その要職にありました。

今回、日本全国の楷の木調査で白梅学園が出て来ないので不思議に思い、ご子息の鈴木利健さんに学校関係者へ問い合わせたところ、同学園発行の『地域と教育』2001年6月号に「記念植樹した楷の木」と題した鈴木三男吉さんの文章を入手できたので、楷の木調査報告の締めとして紹介させていただきます。



鈴木三男吉氏

「日本で育った(楷の木の)雄木と雌木との間に初めて二世が生まれたのは、最初の渡来から約半世紀を経た昭和四十年のことです。横浜・金沢区の鈴木吉五郎邸(春及園)雄木と、同じく横浜の金沢文庫の雌木との間で人工交配が行われ、めでたく春及園で二世が生まれ、楷の木普及の端緒を作ることが出来ました。このほか広池学園麗澤大学(千葉・南柏)には幸い隣り合わせに雌雄の木が成長したので二世を生むようになり、神奈川県大井にある第一生命のグラウンドの周辺には三十本以上の二世が見事に成長し、すでに自然交配による三世が誕生しています。

私も最初の二世を生んだ鈴木氏から種子をもらい苗木を育てましたので、この由緒ある歴史を持つ白梅学園を去るに当たり、同じく由緒ある楷の木をこのキャンパス内に残したいと思ったのですが、適当な場所が見当たらず、前理事長小松雄二氏と相談の上、八王子の大学セミナーハウスに決めました。館長の岡宏子先生も快く承諾下され本部に近いようこそ広場に平成六(1994)年五月二十六日、岡先生の立会いで前理事長と共に、私が育てた三年生の苗木を記念植樹しました。

館員の方々にも大変お世話になり立派に成長し、現在では高さも三メートルを超えています。お立ち寄りの節は是非ご覧になって下さい。楷の木はウルシ科ですが、絶対にかぶれませんし、その真赤な紅葉の美しさは有名です。」

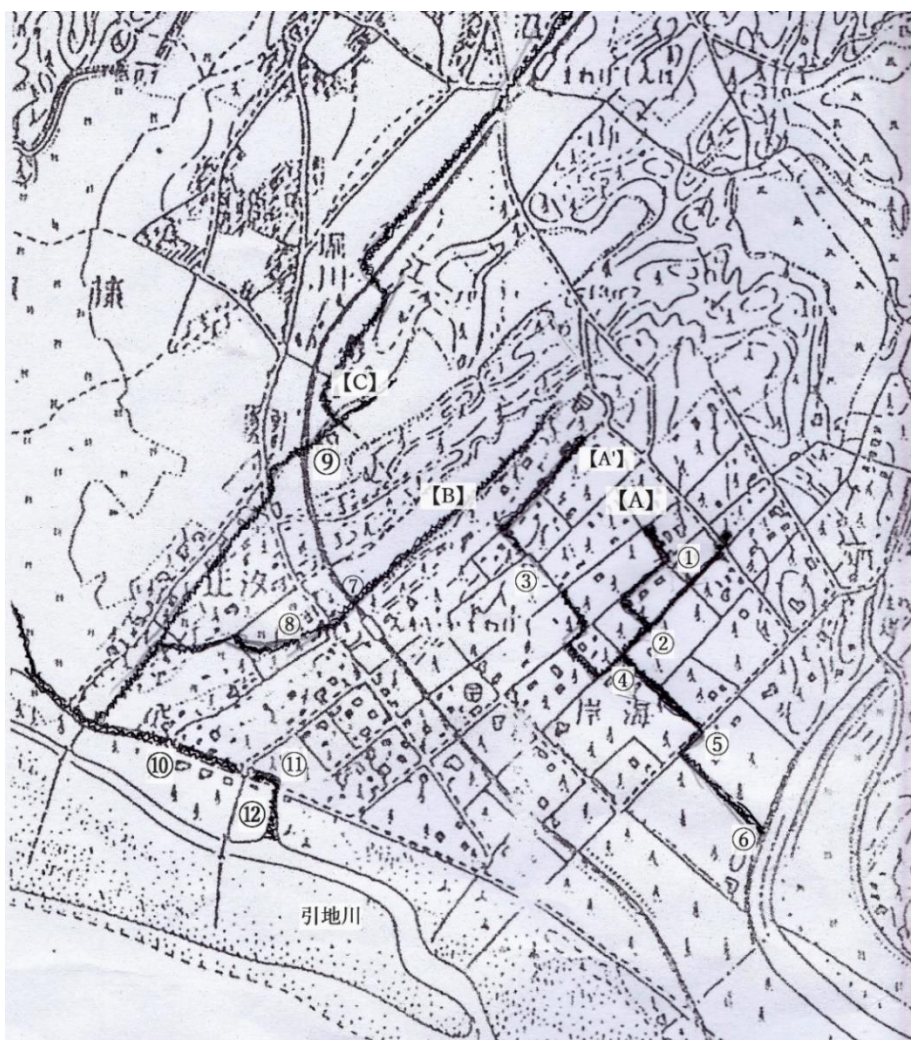
チョッと見てみよう

鵜沼松が岡を流れた水路跡

有田 裕一（会員）

松が岡にはかつて多くの池と水源（湧水）があった。大きな邸宅には池があったが、そのほとんどが埋め立てられ、見かけなくなった。それらをつなぐ水の流
れが松が岡内には主に3本の水路があったが、すべて暗渠になった。

今回はこの水路をたどって、夫々の海への出口をカメラで追って探ってみた。



大正時代の地図（小田急線を加筆）に流路を記入

【A】の水路は松が岡3-6あたりを水源とするもので真横に東へ、東仲通（天金通り）を横断、圭室先生宅(松が岡2-7-15)前を通り、その先、八軒別荘(松が岡2-6)に至る手前の四つ角を90°曲がり（写真A-①）南下、これがなぜか左へ90°曲がり、旧・佃邸(松が岡2-7)内を再び東へ、現・加文字邸(松が岡2-12-7)北端へ出る（写真A-②）。この流れには現サービス付き高齢者住宅(松が岡2-3)辺りの砂丘を水源とする流れが諸星畳店(松が岡2-6-6)の横から南下、加文字邸前で合流する。又、このAの流れのもう一つの水源は湘南学園グランド周辺の湿地から発生した【A'】の流れ。一木通り東側の砂丘列の東すそを南下、ビーナマンション(松が岡4-14)で90°曲がり、東進、湘南学園の通学路のクランクの角（写真A-③）を東仲通りまで進み、手前の松本無人荘内(松が岡3-16)を南下、これが東仲通り向こう側、松が岡2-14へと東進する。ここの木下別荘(松が岡3-20)の池の水を加えながら仲田邸(松が岡2-12-16)先を少し北上、小林鵜沼寮門前(松が岡2-12-4)で、先の南下して来た流れAと合流（写真A-④）して東へ進み、江ノ電・鵜沼駅から、大曲りへの旧海岸通りを横切る。この橋が「藤ヶ谷橋」（写真A-⑤）で菊本邸(松が岡1-11)へ入る。邸の海側の塀の外側を暗渠のまま、水流は片瀬川へ入る（写真A-⑥）。ここは紋十郎河岸と言われ、筆者が父から聞いた話では、川の中から壊れた大きな船の竜骨が水面高く突き出していたというから船着き場があったのだろう。

【B】の流れは湘南学園方面より、一木通り東端を南下し、（写真B-⑦）の右側を手前へ流れる。小田急線が開通する前は、そのまま元セブンイレブンの脇から、会員であった杉本邸内(海岸3-6-8)を通り、海岸3-7-2を通り（写真B-⑧）、海岸3-11-12の津田邸前で【C】の本村からの流れに合流。

【C】の水路は、本村の鵜沼小学校付近から、大東を通り、小田急線西側を南下、本真寺を過ぎたところで線路の下を東へくぐり、新田宮の脇から、松が岡公園前を経て、再び小田急線の下をくぐり（写真C-⑨）、商店街の最西端を横切り、相鉄ローゼン駐車場西側を海岸3丁目へ入る。これが堀川の田の中を南下し、伏見稲荷神社脇を通って来た「古川」と合流、赤別荘（現・スカイマンション：海岸2-17）前（写真C-⑩）を通り、海岸2-12-10鯉取橋（写真C-⑪）で90°右折、なぎさ橋（この流れのため134号線上に昭和初めに造られた）をくぐり引地川へ出る（写真C-⑫）。今でも暗渠の中を通して来た水が流れている。

（ありた ひろかず）

*文中、鵜沼松が岡・鵜沼海岸の鵜沼を省略した



A-① 松が岡 3-6 右から出て正面へ流れる



A-② 松が岡 2-7-14 加文字邸



A-③ 湘南学園通りのクランク



A-④ 松が岡 2-12-4 小林鵜沼寮まえ



A-⑤ 松が岡 1-11-25 藤が谷橋（古写真）



A-⑥ 松が岡-14-4 片瀬川への流水口
今も水流がある



B-⑦ 一木通り白線の内側が水路



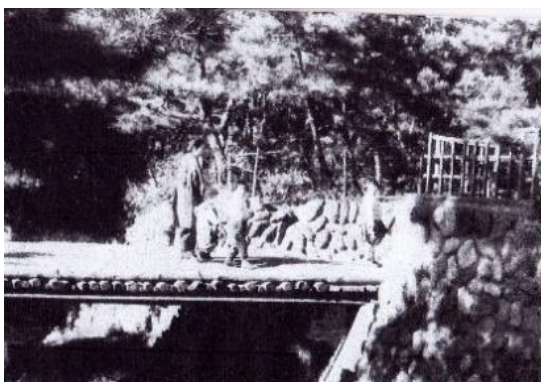
B-⑧ 鵜沼海岸 3-6-15
上方の商店街から手前に流れる



C-⑨ 松が岡 5-13 白線の右側が流路
突き当たり線路の下にガードがあった



C-⑩ スカイマンション前（古写真）



C-⑪ 鵜沼海岸 2-13-12 鯉取橋(古写真)



C-⑫ なぎさ橋より引地川へ

藤沢市指定重要文化財のある 龍口寺

片瀬の龍口寺の大本堂と山門、五重塔の1棟2基が今年(2021年)10月1日付で藤沢市指定重要文化財に指定されました。11月例会を龍口寺めぐりに充てたのですが、生憎の雨で中止となりました。またの機会を見て龍口寺めぐりを企画しますが、ここで龍口寺について簡単にふれておきます。

龍口寺概要

龍口寺(龍ノ口)は鎌倉時代の処刑場。

文永8(1271)年、日蓮はここで処刑されそうになった。その後、延元2年/建武4年(1337年 南北朝時代)に日蓮の弟子、日法がこの地を「龍ノ口法難霊蹟」として敷皮堂という堂を建立し、自作の祖師像(日蓮像)と首敷皮を置いたのが龍口寺の始まりと伝わる。

江ノ電の線路に面した仁王門、その左脇が龍ノ口刑場跡。「龍口刑場址」「南無妙法蓮華経」「日蓮聖人六百五十年記念碑」などの石造りの碑、石塔、標柱が立っている。

仁王門をくぐると階段上に山門があり、ここには中国の故事に基づく秀逸な彫刻がほどこされている。大坂の豪商加島屋が元治元(1864)年寄進した。

山門をくぐると大本堂が姿を現す。有数の大建築であり、軒下の木組みは豪壮である。天保3(1832)年、竣工。檼造、銅板葺、正面唐破風。

大本堂右奥には五重塔。県内唯一の五重塔で、明治43(1910)年に竣工、総檼造、銅板葺。四層に彫刻があるが初層には「龍ノ口法難」などの彫刻が見られる。



山門をくぐると大本堂。右奥には五重塔がそびえる



山門には中国の故事に基づく彫刻が施されている



神奈川県下唯一の五重塔



鐘楼 誰でも鐘をつけるのは嬉しい



日蓮聖人が入れられたとされる土牢

日蓮聖人「龍ノ口法難」

鎌倉時代後期、日本は内乱や蒙古襲来、飢餓や疫病の蔓延など、様々な脅威に包まれていた。それらを憂えた日蓮聖人(1222～1282 年)は、『立正安国論』を著し、幕府に奏上した。しかし、幕府はこれを政策への中傷であると受け止め、文永 8 (1271) 年 9 月 12 日、鎌倉松葉谷の草庵で日蓮聖人は捕らえられ、斬首するために刑場であったこの地、龍ノ口へ連行された。

翌 13 日子丑の刻（午前 2 時前後）、土牢から引き出された日蓮聖人は敷皮石（座布団状の石に皮を敷く）に坐らされ、評定の使者も待たず、あわや斬首になろうとしたとき、「江ノ島の方より満月のような光ものが飛び来たって首斬り役人の目がくらみ、畏れおののき倒れ」（日蓮聖人の手紙より）、斬首の刑は中止となった。これが日蓮聖人五大法難のひとつ「龍ノ口法難」の経緯である。

（運営委員会）

参考資料：龍口寺HP 他

写真：H.T撮影

コーヒースレイク Coffee Break コーヒースレイク Coffee Break コーヒースレイク

東京オリンピック雑感 — 好感度あふれる人柄の魅力

▽入江聖奈選手：ボクシング女子フェザー級金メダル。鳥取県米子市出身、米子西高校卒、現在日本体育大学3年生。入江（敬称略）はオリンピック初出場で、女子アマチュアボクシング史上初の金メダル獲得。決勝戦の試合中アンパイアから指導が入ると、ピョコンとお辞儀し、試合が終わってアンパイアが高々と入江の腕を上げると、彼女はカエルのようにその場で跳びはねたのが愛くるしかった。ちなみに彼女はカエルが大好きで、マスクやザックにもカエルがプリントされているとか。

その彼女も、試合後のインタビューで、コロナ禍でオリンピックを迎えることになり、巷間オリンピック開催反対の意見も多い中で、「自分が本当にオリンピックに出ても良いのだろうか？」と悩んだ時期もあったことを率直に打ち明けた。その後の記者クラブでの金メダル会見の時「大学を出たら、ボクシングから引退して、次の人生を考えたい」と発言したのには驚いた（私はオリンピック連覇を期待していたから）。しかし、彼女は何と切り替えが早い人なんだろうと妙に感心した。

オリンピックが終わり、郷里の鳥取県庁へ報告に訪れた時、平井知事から贈られた鳥取砂丘の砂から作られたメダルは、彼女の大好きなカエルのレリーフであった。それを首からかけられた時の、純真な笑顔に人柄の魅力を感じた。

我が郷土藤沢からもソフトボールで金メダルの山田恵理さん、何より地元鵜沼海岸からの都築有夢路さんがサーフィン女子で銅メダルを獲得したことに拍手を送りたい。

▽パラリンピックは9月5日に終了したが、身体障がい者たちが力強く生きている様に感動した。コロナ禍で、せっかくの児童たちのパラ応援見学ができなくなったのも、共生の観点からは大変残念なことであったと思う。

最後に選手たちはコロナ環境のなかで、本当に良くやってくれたと敬愛の念を抱くが、一方で、オリンピックをとりまく、関係者の間ではこんなに不祥事が頻発したことは遺憾であった。まずオリンピック招致のワイロ疑惑でJOC会長を辞任した竹田恒和、東京オリンピックエンブレム盗用問題を起こした佐野研二郎、今年に入ってから女性蔑視発言で組織委員会長を辞めざるを得なかった森喜朗会長、3月には女性タレントの容姿を侮辱する発言で、閉開会式の演出

コーヒースレイク Coffee Break コーヒースレイク Coffee Break コーヒースレイク

コーヒースレイク Coffee Break コーヒースレイク Coffee Break コーヒースレイク

統括者を辞任した佐々木宏、7月、過去の障がい者いじめが発覚して開会式の作曲担当を辞任した小山田圭吾、ホロコーストを揶揄した過去が発覚し、開会式の前日に閉開会式のディレクターを解任された小林賢太郎等々、極めつきはIOCの商業主義。参加選手第一に考えれば、8月にやるのは無謀であった。

現に1964年東京オリンピックは気候の良い10月に行われた。こんなにも数々の不祥事があったなら、大金を費やして三たび日本でオリンピックを開催して欲しくないのが、私の感想である。
(小池 清志)

なんだこれ！ エプロン姿の富士山

12月中旬といえ
ば、鵜沼海岸から
眺める富士山は裾
まで白くなってい
ることが多いのだ
が、去年は積雪が
ほとんど見られな
い状態だった。南
岸低気圧の接近は
なく、寒気だけが
強かった。



雪のない富士山が
白いエプロン掛けをしたのはその頃で、眺めた瞬間「なんだこれ！」と叫んでしまった。こんな姿の冬富士を見たのは初めてだ。

なぜだろうと考えた。思ったことはこうだ。強い寒気が西風に乗って押し寄せ富士山の東側に局地的に雲が沸いた。この東側の一部にかかった雲が雪を降らせ、何ともおかしい雪姿になった。

その後、麓の御殿場と三島の新聞記事を調べると、いくつかの新聞に自分が推測したと同じ現象で不思議な姿になったとあった。淡く積もったエプロン状の雪は数日後には消えていた。

今冬の富士山は10月の雪が根雪になり端麗な雪化粧の姿になっている（弥）

コーヒースレイク Coffee Break コーヒースレイク Coffee Break コーヒースレイク

できししよせいれい ニエアル 溺死諸精霊の碑と聶耳の碑

岡田 哲明（会員）

鵜沼の海で命を落とした人たちの碑が 2 基ある。1 基は明治 5（1872）年に遭った鵜沼村住民の遭難事故の碑、もう 1 基は昭和 10（1935）年に鵜沼へ海水浴に来ていて溺死した中国人作曲家聶耳（ニエアル）の碑である。



国道 134 号線 竜宮橋入り口交差点の碑



鵜沼橋東詰 ニエアル広場と碑

溺死諸精霊の碑

■設置場所

現在：藤沢市鵜沼海岸 4 丁目 6 番。国道 134 号線「竜宮橋入り口」交差点北西角

■この碑に関する資料

- 1) 鵜沼を語る会会誌『鵜沼』15 号 伊藤節堂「鵜沼郷土史年表」

明治 5 年 7 月 27 日暴風来襲し鵜沼沖で難破船 4 艘、溺死 10 人

（加藤徳右衛門『現在の藤沢』昭和 8 年刊）

- 2) 鵜沼を語る会会誌『鵜沼』22 号 久保尚雄「災害（天災）略年表」

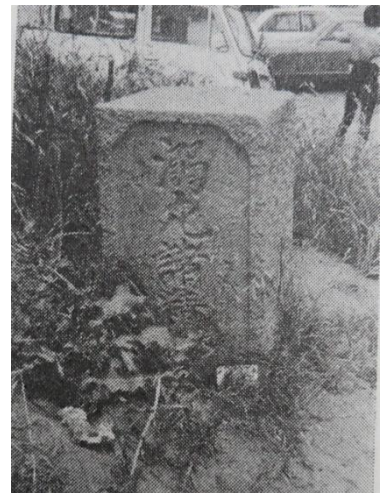
明治 5 年、相州出水 7.22 暴風雨襲来難破船



溺死諸精霊の碑

- 4、死者 10 人 鵠沼 7.27 (藤沢市史：年表編)
- 3) 鵠沼を語る会誌『鵠沼』30 号「鵠沼の石仏石神編年表(1980 年)」
明治 5 年：精霊供養塔 鵠沼海岸 4・6 地先 74 cm
- 4) 鵠沼を語る会誌ホームページ 総合年表・災害年表 渡部瞭まとめ
明治 5 年：7.27 暴風来襲し鵠沼沖で難破船 4 艘、溺死者 10 人 引地川出水
(相州出水からの類推か) (現在の藤沢・『鵠沼』15・22 号)
明治 29 年：7.20 鵠沼海岸で三河の千石船が暴風により難破、供養のため竜
王社を祀った。 (高木和男『鵠沼海岸百年の歴史』)
- 5) 『現在の藤沢』加藤徳右衛門著 昭和 8 年初版 昭和 55(1980)年『藤沢郷
土誌』と改題復刻
明治五年七月廿七日暴風来襲し鵠沼沖に於て難波船四艘、溺死者十人、而し
て陸上は差したる被害無かりし。
- 6) 『藤沢市史：年表編』 藤沢市役所 昭和 56 年刊
七月：二二日、大雨のため相州出水 二七日、暴風来襲し、鵠沼沖で難破船
四艘、溺死者一〇人
- 7) 『鵠沼海岸百年の歴史』高木和男著 昭和 56 (1981) 年初版 57 年追補、
64 年第二追補版の 31) 海難溺死者供養の碑 P118~120

この碑は、竜宮橋を渡って海岸へ出る道の西側にある。これは明治二十九年七月二十日（一八九六丙申）に三河の千石船が大暴風に遭遇して難破し、全員溺死したことを弔ったものという。この船は東京へ米を運んでいく船で、その行きか帰りか、は判らない。私の知っている大正の時代にも北海道の鮭を積んだ船が遭難して、これは海辺に打ち上げられたので全員は助かったが積荷の鮭を旅費調達のため、海岸の人々に安く売りさばいたという話を、秋津のおのぶさん¹⁾ から聞いている。暴風に遭うと江ノ島の裏に逃げようとして、強い西流を乗り切れず、鵠沼海岸あたりに流されることが多かったらしい。



注：1) 鵠沼海岸駅から商店街を横切り駐輪場へ行く道の角に秋津という人力車と駄菓子のお店があった。(鵠沼海岸商店街の歴史) おのぶさんはその女将か。

上記のように当時は今より竜宮橋に近い所にあった。

資料 3) の 74 cm は、前ページ写真のように砂に埋もれていたから、地上に出ている部分を測ったのであろう。

■碑の大きさ（筆者採寸）

	碑	台座	全体
横幅	45 cm（1 尺 5 寸）	72 cm（2 尺 4 寸）	—
奥行	42 cm（1 尺 4 寸）	66 cm（2 尺 2 寸）	—
高さ	90 cm（3 尺 0 寸）	21 cm（7 寸：推定）	111 cm（3 尺 7 寸：推定）
台座上面、碑の前に 21 cm（7 寸）×6 cm（2 寸）深さ 3 cm（1 寸）の凹み（水鉢）			

■碑の刻字

- 正面： 右の行……明治□五□申歳
中央の行…溺死諸精霊
左の行……七月二十二日
- 側面： 刻字なし（荒い鑿仕上げ）
- 背面： 刻字なし（荒い鑿仕上げ）
- 台座 正面： 鵜沼村（右から左へ横書き）
- 上面： 水鉢（彫りこみ）
- 側面： 刻字なし（荒い鑿仕上げ）
- 背面： 不明（半分土中埋没）

■碑文と資料との相違について

上記 7 資料のうち、1~3 までは 5 と 6 からの引用である。4 は 5,6 に 7 の内容が加わっている。しかし、この碑面の内容と全て合致するものは一つもない。この疑問を解いていこうと思う。

正面右の行：風化が進んで判読できない 2 文字は？ 最初の□は舊であろうと思われる。明治政府は明治 6 年、それまでの太陰太陽暦からグレゴリオ暦に改めた。旧暦 明治 5 年 12 月 3 日を明治 6 年 1 月 1 日に制定した。当初は混乱するので旧暦と新暦が併記され、それは明治 42 年頃まで続いたという。とすれば明治 5 年は壬申（みずのえさる）であるから二番目の□はおのずと「壬」とであると判明する。即ち「明治舊五壬申歳」である。

高木氏は最初の□を数字と思い五を九と読んで二九または廿九としたのであろう。ちなみに、明治年間の申年は、5 年壬申、17 年甲申(きのえさる)、29 年丙申(ひのえさる)、41 年戊申(つちのえさる)と 4 回ある。しかし、このような数字表記ならば七月二十二日は二二日または廿二日と書かないと統一がとれない。

正面中央の行：溺死諸精霽の「死」は第 1 画の「一」に代えて「ト」または「下」と書かれている。漢字辞典にも見当たらない字であるが、意味は死と同義であろう。最後の「霽」という字は難しい字だが辞書に載っている。霊と全く同じ意味で読みも音読み「レイ・リョウ」訓読み「たま・たましい」である。

正面左の行：月日の部分の状態は現在でも非常によくて誰が見ても読み間違えることはない。にもかかわらず資料 5) と 6) は遭難があったのは 7 月 27 日としている。資料 7) では 7 月 20 日となっていて、碑に刻まれている 7 月 22 日としたものが一例もないのはどうした事か。

発行の順序からいって 6) は 5) から引用し、現地調査はなされていないのではないか。

資料 1) ～4) も同様である。

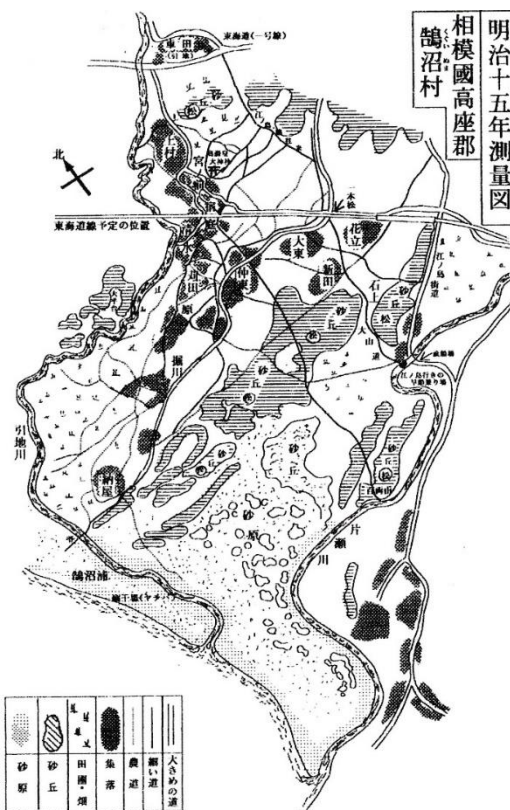
では 6) はどこで違ったか、加藤氏が纏める際に間違えたか、植字工が間違えたか、のいずれかであろう。

資料 7) は現地に行って写真まで撮っているのに二十二日を二十日としたのは、写真で分かるように二十から下が埋もれていた故かと思われる。

■台座「鵠沼村」の刻字について：どう
いう人の慰霊碑か？

台座に鵠沼村と彫ってあるのは、建立は村の総意でなされたもの、またその費用も村が負担して作られたものと推察できる。台座に水鉢があるところから、慰霊碑というよりもお墓に近い。当然、溺死したのは村人に違いない。

三河の千石船遭難という高木説は信じ難いのである。



鵜沼村の面積は「鵜沼村縮切図」によると 529.9 町歩。藤沢市史によれば明治 10 年代の鵜沼村の住戸数は 300 戸たらず、うち漁業（漁船 9 艘）70 戸、民業農 212 戸、人口約 1900 人であった。恐らく明治 5 年の数値もこれと大差ない。

漁船の半分を失い、30 戸に 1 人の死者が出たら大事件である。犠牲者を祀ることで 2 度とこのような災害に遭わないよう村を挙げて祈ったであろう。

■ どのような災害であったか

私は、当初、鵜沼沖で難破船 4 艘、死者 10 人という資料 5) 6) の記述から沖で操業していた漁船が烈風と波浪で破損、難破したのだと思った。しかし、泳ぎの達者な漁師が 10 人も溺死するであろうか。近海漁業ではシケの海に漁に出ても大した収穫は望めないし、ましてや大シケの予兆があれば出漁を見合わせるのが老練な漁師ではないかと思い、以下のように推測し直した。

台風が来ると云うので通常的位置まで浜に引き上げてあった漁船が予想外の台風の高潮（大潮と重なったかも知れない）で流されそうになり、村人総出でその対応に追われていた処に、特大の波が襲って攫われたか、または大雨で増水した引地川の右岸が決壊して漁船 4 艘もろとも 10 数人が一気に沖へ流され、うち 10 人が帰らぬ人となったのではないだろうか。

そうだとすれば溺死者はむしろ漁師ではなく、普段は農業で漁船が戻ると浜へ出て網を引く半農半漁の人たちで、なかには泳ぎの不得手な人や女性もいたかも知れないと思われるからだ。皆さんはどう思われますか。

■ 竜王社とのかかわり

古来、漁師の信仰として八大竜王を祀る竜王社がある。この溺死諸精霊の碑も竜王社境内かその近くにあったようである。八大竜王は水を司る神様だから各地の漁港にある。逗子市小坪の漁港にあるものは有名である。

また竜王は、雨乞いの神様だから方々の農村の雨乞い行事に祀られる。

資料 7) の高木氏の本には竜王社についても記述があり、それによれば鵜沼の漁師は竜宮橋を渡った西側に竜王社を祀っていたが、今は辻堂の漁協の竜王



辻堂の竜王社

社が戦時中に海軍のカタパルト演習で失われたので、両漁協の合併を機に辻堂東海岸 4 丁目の西角（134 号線浜見山交番前）に移された。

鵠沼の雨乞い竜も大正 8 年の高木氏の見聞では、農村の方からやって来て商店街に入りグリーンストアの処（学園通りをそのまま海のほうへ）から海のほうへ曲って行く。そして最後は海に流されると記されている。

一方『鵠沼』74 号に榛葉昭市氏が書かれた「鵠沼古道：本村縦貫道」によれば雨乞い竜は皇大神宮を出発点に苧田、堀川、納屋と、この古道を通って海に出たというから商店街を通らないで竜宮橋を渡り竜王社を経て海に流された。

高木氏のコースは商店街が出来てから、すこし回り道をするようになったと思われる。竜宮橋という橋の名前は竜王社があったからに違いない。

聶耳（ニエアル）の碑

■聶耳（1912.2.15～1935.7.17）略歴と遭難の様子

中国昆明市出身、作曲家、1933 年中国共産党入党、1935 年 4 月上海から長崎丸で来日、上京。滞在中に中国制作の抗日映画「風雲児女」の主題歌として『義勇軍進行曲』を作曲。『義勇軍進行曲』は 1949 年 9 月中華人民共和国の暫定国歌に制定された。1966 年文化大革命時は歌われなかったが、1978 年第五期全人代大会で正式の国歌に定められ、2004 年憲法上国歌と明記された。

日本滞在中の 1935(昭和 10)年 7 月 9 日友人李とともに李の友人藤沢の浜田實弘氏宅に寄宿。連日、海で遊んだが 17 日、鵠沼海岸で遊泳中行方不明となり、翌朝、遺体が発見された。遺体は藤沢の火葬場で荼毘に付され、遺骨は同年秋、張鶴らによって上海経由で故郷の昆明に帰った。

そのときの遺体発見の様子を浜田氏は「翌朝も依然として見つけることが出来ませんでした。家に帰ると、そこに警察から知らせが入り、遺体が上がったというのです。私は急いで現場に駆け付けました。遺体は、ごく普通の溺死者のようでした。水も飲んでいませんでした。ただ、わずかに口の中から血が流れており頭から少し血が流れていました。検死の医師は窒息死だといいました。聶君の遺体を引き上げた場所は、泳いでいた地点から西南約 30m の海底でえぐられて溝のようになっているところでした。」と「聶耳物語」聶耳記念碑保存会 1989 年刊に掲載されている。

一方、関根久男氏が執筆された『鵠沼』85 号「ニエアルの生地・昆明市訪問」

には、「翌 18 日午前 5 時 30 分頃、海水浴場監視員の森井亀之助氏が海に出かけてゆくと、無惨な姿で浜に打ち上げられていたニエアルの姿を発見したそうです」と遺体発見の状況が浜田氏の記述とかなり異なる。関根氏らは遺体発見の様子を知ろうと遺体回収に当たった古老からじかに聞き取りをしたという。

森井氏の証言の方に信憑性があるように私には思える。海底の溝の遺体は潜らなければ発見できない筈だし、浜田氏の文は中国での「聶耳紀年集」出版に際し聶耳の友人張鶴に依頼されて書いたもので無惨な実態を書くに忍びなくて脚色したのではないだろうか。だが、後年この文章が真実とされて定着し、現在に至っている。英雄の死はしばしば美化して伝えられるものである。

■設置場所

現在：藤沢市鵠沼海岸 2-18 引地川左岸 国道 134 号線鵠沼橋の東詰

■設立の経緯

1949 年聶耳作曲『義勇軍進行曲』が国歌となったのを記念して藤沢市民の有志が、鵠沼の海で死んだ聶耳を記念する事業を行おうという運動がおこり碑の建設に至った。詳細は高木和男著「鵠沼海岸百年の歴史」第二追補版の追補（14）に記述されている。

■碑の設地位置の推移

昭和 29（1954）年 11 月 1 日除幕式（引地川右岸スケートパークの海岸寄り）

碑は建築家山口文象の設計、碑文は秋田雨雀。設置された場所はニエアルの遺体が上がった近くと推定され、碑は海に向かって立てられた。

秋田雨雀の碑文は鋳銅製で碑の手前左側に宙に浮くように設置されている。



昭和 33 (1958) 年 9 月 27 日 狩野川台風で破損

サルスベリの群植も敷石も流され台座が傾いて放置されていた。いつしかブロンズ製の碑文も盗まれてしまった。その後、時期ははっきりしないが引地川右岸国道 134 号線寄りの仮の場所へ、どういう訳か海岸線に平行に東向きに設置された。



昭和 41 (1966) 年 9 月 18 日 修復再建 (引地川左岸に移転)

1964 年 4 月再建の計画が立てられ、敷地を引地川の対岸にある県の所有地が環境にも適していることから、そこを望む声も多く県に要請した結果、漸く設置の運びとなり修復再建されたが、碑は以前の向きを踏襲したのか、東向きに設置された。



昭和 61 (1986) 年 3 月 同所：再整備 (碑の向きが変わった)

聶耳没後 50 周年記念再整備が聶耳記念碑保存会によって碑は最初の設計のように南向きに直された。聶耳のレリーフ (菅沼五郎作) と献花台が追加され、碑文は原文の一部誤りを井上靖によって訂正、花崗岩に刻字されたものが碑



を囲む擁壁に埋め込まれた。この擁壁には他にも郭沫若筆「聶耳終焉之地」葉山峻「聶耳記念碑の由来」ほか多くのプレートがはめ込まれている。

〔碑文〕 聶耳を記念する

ここは中華人民共和国の作曲家聶耳の終焉の地である。彼は一九三五年七月十七日暑さをこの地に避け水泳中突然波間に姿を没し不帰の客となった。聶耳は一九一二年中国雲南に生れ欧陽予倩先生に師事し二十数年の短い生涯の間に中国民衆の労働を歌った大路歌碼頭工人歌等の大作を残した。現在中華人民共和国国歌となっている義勇軍行進曲もまた彼の作曲になるものである。耳を傾ければわれわれは今日なお聶耳のアジア解放の声を聴くことが出来るであろう。ここは聶耳の終焉の地である。

一九五四年十月

秋田雨雀 撰

豊道春海 書

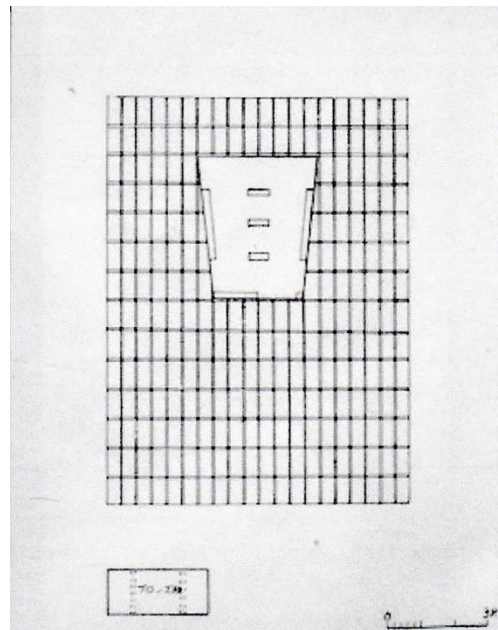
■碑の設計者による設計意図

設計者は建築家の山口文象（1902～1978 やまぐち ぶんぞう RIA 建築総合研究所長）である。以下は山口自身が建築雑誌に発表したものである。

「この碑の設計を依頼された時、私は感動しました。30年ほど前ある研究会で中国の近代音楽が話題にのぼり、若い革命的作曲家として聶耳氏のことも多く語られていたことを思い出したからです。私は彼の終焉の地に、しかも今日の世界情勢の中にこの碑を建てられるということに、なにか表徴的な意味深いものを感じ取りました。この海岸に候補地が二三あげられましたが私はここに決めました。前面が大きく展けて水平線に小さく大島のあたりがのっており、左に江の島、西南の隅に遠く富士が見えます。おそらく故人も小さい乍ら変化のあるパースペクチヴが織りなす優しい風景に心を惹かれていたのではないかと思います。

私は今までの定型化された碑の概念を捨てようと思いました。

視点の移動に従ってマスの組み立てと、線や影のコンポジションが一つのテーマに従って動的な空間を構成する、ということを意図し、造形しました。



耳の字をデザインした平面図

私の意識の奥底に聶耳氏の中共国家の力強いメロディが流れていて私のアイディアを誘い出したのかも知れません。

半円形の江の島、水平線な水平線と三角形の富士、この幾何学的な背景を堅い構成の物体で直接しぼることは、その対比があまりに強すぎ、印象も裸になり過ぎます。そして色の重なりからしても背景との中間にやわらかいヴェールをかけたいと思いました。サルスベリの特異な枝ぶりは群植することによって思わぬエフェクトを創り出してくれました。故人の命日の 7 月 17 日ころには小さな真白い花をいっぱい咲かせることでしょう。この建碑に当って主催者の藤沢市の人々の努力は勿論ですが、施工された日本美術社の小原銀之助氏や秋田雨雀氏の昼夜を通しての精励を忘れることは出来ません」(『新建築』1955 年 4 月号)

山口は除幕式に出席してサルスベリの群植の効果が想像以上であったことに満足したようで、思わぬエフェクトとまでいつている。

■碑のデザインと素材

ニエアルの名前の耳をテーマにデザインしたと伝えられる。上から見ると耳という字になっている。碑面中央にそれぞれ高さの違う小さな長方形の 3 個の突起は、文字を表すとともに音階を表現したものであろう。この六面体は 4 個の台形と 2 個の矩形からなっている。台形は耳の字を表し、聶耳の 4 個の耳の字を連想させるのである。

円錐台形の台座には昭和二十九年十月 聶耳記念碑建設会長 藤沢市長 金子小一郎と刻まれている。

素材はすべて稲田石という茨城県笠間市稲田から採掘される花崗岩である。

(おかだ てつあき)

参考・引用資料

「現在の藤沢」加藤徳右衛門著

「藤沢市史」藤沢市編

「鵜沼海岸百年の歴史」高木和男著

「鵜沼」15 号 22 号 30 号 74 号 85 号

「鵜沼村縮切図」

「聶耳その生涯」日中友好協会

「聶耳物語」聶耳記念碑保存会

「新建築」1955 年 4 月号 新建築社

夢は空の向こうに

～日本の草分け的スチュワーデス物語～

貴田 里砂（会員）

私の母は松田（旧姓:西田）和美と申しますが、1950年代、まだパスポートが容易には取れずにいた頃、ノースウエストオリエント（ノースウエスト航空）のスチュワーデスとなり、まだ本土復帰していなかった沖縄や、マニラ、バンコク、台北へと飛んでおりました。

なぜ空を飛ぶようになったのかを母のおいたちから順にお話しいたしましょう。母は、近江商人の父、同じく滋賀出身の母、兄3人と6人家族、家は日本橋の三越まで歩いていける距離の会社兼住居で、久松小学校に通っておりました。戦争が激しくなり、私の祖父が持っていた鵜沼海岸の別荘に疎開、湘南白百合（当時は乃木小学校）へ編入、そのうちに大空襲で日本橋は跡形もなくなることとなります。



終戦の時、母は高等女学校1年になっておりました。その後、湘南白百合学園で柳生先生という英語教師に出会ったことが母のその後の人生を大きく変えたのだと思います。柳生先生はその後スカラシップを取得して留学されました。

大学でも英語を勉強したいという希望が強かった母は、高校時代のクラスメイトの勧めで、青山学院という学校について知ることとなります。英語教育から始まった学校であるということは母にとって、とても魅力があったようです。FEN（アメリカ軍極東放送）を聴いたり、一つ年上で湘南高校から慶應に進学していた兄と一緒に勉強したりしながら大学を受験。当時は英語の教育者を多く輩出し

ていた青山学院大学文学部英米文学科で勉強することになります。

母の大学時代の前半はまだ日本が占領下にありましたが、大学時代の母の生活はとても自由で、また母の2番目、3番目の兄も大学に通っており、一家に大学生が3人いる楽しい雰囲気だったようです。鶴沼海岸の家にはピアノがあったので、占領軍で来ているアメリカ人がピアノを弾きたがっている…と知人が連れて来られたり、家族で行ったスキー場で知り合った青年将校さんとその後ずっと家族ぐるみのお付き合いをするようになったり、母の話してくれたその頃のことは占領下という言葉から想像する恐ろし気なイメージとはだいぶ異なっていました。

母の一番上の兄は学徒で出陣し、無事帰ってきた人ですが、占領軍で来ているアメリカ人のことを「若い彼らは自分たちが占領軍だとよく分かっていないのではないか…」と言っていたそうですから、占領軍としてアメリカから来ていた人たちも極東の珍しい国での生活を面白く思っている様子だったのでしょうか。ディック（リチャード）・ランドラビルというその青年将校さんは、日本のような極東の小さな国の女子学生が自分の国の文学を勉強しているということに大変驚き、その後帰国してから勉強を続け、後に広島大学に留学されることになり、母国で大学の教授になられました。今よりも情報も交流も少なかった時代にお互いに影響しあうというのは、なんだかうらやましいような気持ちになります。

大学時代は米文学をアドバイザー・グループ（青山学院大学特有の制度）で研究し、ますます英語への興味や海外への憧れを募らせていた母は、大学の森下先生に留学の相談をし、アメリカの大学へのレコメンデーション（推薦状）も書いていただいていたようですが、明治26年生まれの祖父は一人娘の留学を許可しませんでした。それでも母の海外への情熱は途切れることなく、勉強で海外へ行くことができないのなら仕事で行こうと決心することになります。

当時はまだパスポートが簡単に取れない時代でしたので、海外に行くには航空会社に入るのが近道と思い、ノースウエストオリエント航空を受けることになりました。米国を代表するエアラインの一つだったノースウエスト航空は1947年に民間の外国航空会社として初めて日本への定期便をスタートさせます。1952年には日本人客室乗務員の採用を開始しました。母が大学を卒業したのは1955年ですので、ほんの数年前に日本人の採用が始まったところだったのです。今のよう

のかも、押し量ることができます。入社の試験を受けに行ってもなかなか結果の連絡が来ないので、母は祖母と一緒に旅行に出かけていたところ、旅先へ祖父から電報が入り急遽帰ってくるようになったそうです。海外留学を反対していた祖父も、母が自分の力で勝ち取った就職には反対することなく、電報で早く帰るように伝えてくれました。「あの時知らせてくれなかったら、スチュワーデスになることはなかった」と母が笑って言っていたのを思い出します。

採用はわずかに数名程度で、母の時も同期は3名で、そのうち2人は他の航空会社から移ってきた方たちだったので、大卒で航空機の知識もないのは自分一人だったと言っていました。アメリカの航空会社ですからもちろん勉強はすべて英語でしなければならず、知らない航空用語ばかりで、トレーニングから帰ると家でも勉強の毎日だったといえます。勉強はしなれているとはいえるものの、自分一人が0からのスタートで予備知識もなく、働いている客室乗務員を見た経験もない時代、強い気持ちが無くては乗り越えられなかっただろうと思います。



機内サービスする母

母の頃のスチュワーデスの仕事は今のそれと少し違う部分もあったかと思います。パスポートが取れないので、一般の旅行客はおらず、お客はほとんどがビジネスか国の仕事関係の方たちなので、接客で困ることはあまりなかったようです。今と同じように荷物をオーバーヘッドラックに入れたり、食事や飲み物を運んだりするだけでなく、着陸後タラップを付ける時に当時プロ

ペラ機だった航空機のドアを開けたりするのも仕事でした。当時の乗客は外国人の男性も多かったようで、ある時ドアを飛行機の機体に付くまで開けようとしたところ、強い風にあおられた時などは乗客に助けられたこともあったと言っていました。

当時の母の乗っていた航路はアジアに限られており、母はアジア線のスチュワーデスとして採用、配属されたわけです。その頃はまだアメリカだったOKINAWA、FORMOSA（今の台北）、MANILA、BANGKOK などへと飛んでいました。沖縄の空港は基地の中の嘉手納が使われており、食事もおフィサーズク

ラブで済ませ、宿泊も基地の中で街に出ることはできなかったようです。マニラやバンコクにも度々行ったようで鏡の寺院の事や、初めて食べたドリアンをお土産に持って帰ってきた時の話などを聞きましたが、台湾が一番好きだったとみえて、その後何度も訪れることになりました。のんびりした時代でしたので、日本から積んでいった雑誌はフライトの後で処分されることになるので、空港の関係者に欲しいと言われると持って降りたりしたらしく、戻りの便の時にお国の名産をいただいたりと楽しいこともあり、家族、特に新しもの好きだった祖母は喜んだようです。母が家に持ち込んだ外国のものや話で、家の中に新しい風が吹いたことと思います。

最先端の職業であり、華やかな世界でもあったので、当時発売されたばかりのトランジスタラジオを持って飛行機の前で広告写真を撮られたり、ヘルベルト・フォン・カラヤンが来日した際にも着物で出迎えをしたりなどの他、私の知らない晴れやかなことも数多くあったので



はないかと思ったりして 左から2番目が母、カラヤン、1人おいてカラヤン夫人います。カラヤンの隣で写っている写真を父はとても気に入って、引き延ばし大きなフレームに入れて飾っておりました。私はトランジスタラジオを持って飛行機をバックに笑っている母の写真が好きで、子供心に誇らしかったのを覚えております。残念ながらその写真は行方不明となり今は私の記憶の中だけにしかありません。その後、客室乗務員の教育係をやらないかと言われた時に母は空を飛ぶのを辞めようと思ったそうで、のちにオランダ航空に移り、勤務地を羽田空港に変えグランドホステスとして何年か勤めることになりました。

スチュワーデスの制服で颯爽とキャリーバッグを引きながら勤めに出かけたり、



KLMのクルーと、左端が母

自分で車を運転して羽田空港へ行ったり、当時の女性の中では進んでいた母。それでも当時のスチュワーデスだったことをあまり人に話さず、昔話をすることもほとんどありませんでした。

その後結婚し一時鎌倉に住みましたが、私が生まれてから、また鶴沼に戻り過ごすことになります。

それでも1964年のオリンピックイヤーには鎌倉の英語ガイドになり、新聞に写真も載ったりして、英語からは離れることなく過ごし、それから後長らく自宅で英語のチューター（家庭教師）として、英会話ではなく、英語の勉強を指導することになりました。

うって変わった地味な仕事でしたが、子供好きな母はこの第二の人生を大変愛し、鶴沼にはかつての母の生徒さんたちがたくさんおられます。

60代半ばで藤沢の資生堂美容室からファッションやカラーコーディネートの講義をして欲しいと頼まれたことがありました。もちろん『元スチュワーデス』という肩書です。その時母は「ファッションやカラーのお話をするのは楽しいと思うけれど、元スチュワーデスという肩書はちょっとね」と言うのです。知人で色彩検定を持っている着物デザイナーがいると話したところ、それはいいことを聞いたと、そこから資格を取る学校にも通い、お頼まれた講義までに色彩検定を取得しました。新しいことにトライし、やりぬく力はこの時まで健在だったのです。

晩年はピアノを弾いたり、絵を描いたり、バラを育てたりしながら、ゆったりと過ごしておりました。おしゃれも大好きで、いつも自分に似合う服を身に着けていました。暮らし方のすべてに、若い頃に身に付けた洋風のスタイルが活かされていたと思います。若い頃の母がどんな風に考え、どんなに海外に憧れていたのか、スチュワーデスで空を飛んでいた時のことも、私がおぼろげな記憶をたどりながら書かせていただいたことが、これであっているのか、残念ながらもう聞くことはできません。それでも今回母の若かりし頃のことを書いてみませんかとお話をいただき、よく知らなかったその時代のことを調べ、子供の頃に聞いた母

の話の思い出しながら過ごす時間をいただいたことを、本当に心より感謝いたします。父に似て、母よりずっと地味な私が子供の頃、「あなたもお母さんのようにスチュワーデスになるの？」と聞かれた…と言って戸惑っていると、「今はね、飛行機はお客として乗る方がいいのよ」と言って笑っていた母。亡くなる少し前病院で「遠回りをしないで、最初から英語教師になれば良かった」と言った母に、「そんなことはないのよ、あの華やかな仕事の経験があったから他の人にはない雰囲気と自信が魅力ある先生を作ったのよ」と言えば良かったと今更のように思い返しています。

母は「人はいなくなったら忘れられてしまうから、長生きをしなくては」と言っておりましたが、母の若い頃や母の育った家のことを覚えていて下さる方がまだいらっしゃる間は、母もどこかにいられると感じます。私の知らない母の若く、颯爽としていた頃のことを是非時々思い出していただき、そしてできれば私にも教えていただければ本当に嬉しいです。空の向こうを夢見て飛び立った母の青春の日々がこの鵠沼にあったことをここに記させていただきました。

ありがとうございました。

(きだ りさ)

<参考資料>

- * [アドバイザー・グループ | 青山学院大学 \(aoyama.ac.jp\)](https://www.aoyama.ac.jp/life/activity/adviser/)
<https://www.aoyama.ac.jp/life/activity/adviser/>
- * [ノースウエスト航空 - Wikipedia](#)
- * [ノースウエスト航空 徹底ガイド | FlyTeam\(フライチーム\)](https://flyteam.jp/airline/northwest-airlines)
<https://flyteam.jp/airline/northwest-airlines>
- * [世界の航空会社で日本の空港に乗り入れているエアライン | な～わ行 \(air-line.info\)](https://air-line.info/kaigai-na-wa.html)
<https://air-line.info/kaigai-na-wa.html>
- * [NORTHWEST ORIENT AIRLINES 1950s JAPAN & PHILIPPINES TRAVELOGUE HIGH ROAD TO THE ORIENT 48454](#)
- * [連合国軍占領下の日本 - Wikipedia](#)

中学生が受けたカルチャーショック

— 六代目尾上菊五郎 —

十代田 知三（会員）

公民館の図書室で『鵠沼』のバックナンバーを調べていたら、「六代目」の文字が目に入った。田中まさこ「終戦後の鵠沼……六代目のこと、椿荘のこと……」（第 25 号）だった。「昭和 21 年、鵠沼駅の裏、境川のほとりに居を構えた」とある。六代目が鵠沼に住んだことは知っていたが、より具体的な土地柄が分かり



鏡獅子を演ずる六代目

何だか嬉しくなる。

というのは、90 年近い私の半生のなかで受けた最大のカルチャーショックが、六代目の舞台なのだ。その翌年の昭和 24 年に亡くなってしまうから、私にとって後にも先にもない唯一の機会だったのである。当時 15 歳の中学生だった私は、東大生の先輩に芝居見物に誘われて、築地の東劇に行った。まだ今の歌舞伎座が再開されていなかった頃の話である。

高校生となつてからは、待ちかねたように毎月昼夜の部とも歌舞伎座の 3 階席に通いつめた。そのためには前売りに並ぶ常連となり、同好の友人が出来て、その縁で楽屋に出入り

する迄になった。生意気に書きとめた劇評は大学ノート 2 冊。

高校 3 年のとき、観るだけではあきたらず、大学の長唄研究会に入れてもらう。「長唄」は、歌舞伎の伴奏音楽として無くてはならないもの。社会に出てからも OB として演奏活動を続ける一方、地元でも鵠沼公民館の芸能文化の一端を担って、湘南長唄同好会（前・藤沢長唄連盟）の代表を務めている。

これも古くをさかのぼれば、ひとえに「六代目」のおかげといえるのではないだろうかと思っている。（そしろだ ともぞう）

「人と人とのつながりは不思議」続編

竹内 広弥（会員）

会誌『鵠沼』をお送りすると感想をお寄せくださる東京・国分寺の吉川八重子さん。利き手が不自由で左手で時間をかけて鉛筆で書かれていると、お手紙にあります。頂くたびに、ありがたいと思っています。

昨年末の120号で「人と人とのつながりは不思議」と題し、塚本茂画伯を軸にした人のつながりを書きました。



昨年、塚本茂画伯についての問い合わせが来たとき、たまたま幼いころ鵠沼橘の塚本茂画伯のアトリエでの絵画教室に通っていたことや、ご子息の塚本実さんと鵠沼中学で同期だったのが幸いし、要望にしっかり対応できました。塚本実さんはパリ在住の画家。たまたま日本に戻っておりパリに戻る際に旧交の記念にと塚本茂画伯の「ばら」の油絵をくださった。そんなこともあり120号で人と人とのつながりの不思議さを書いたのだが、実は当会会員にも子どもの頃、塚本茂画伯のアトリエでの絵画教室に通っていた方がおられました。故人となられた渡部瞭さん、もう一人は原雅子さん。このお二方ともつながりがあったようです。

吉川八重子さんは鵠沼ゆかりの実業家・高瀬弥一の三女で、自らの句集を何冊か上梓され、鵠沼を語る会にもお送りいただいています。今年の1月にいつものように吉川八重子さんからお手紙が届きました。驚いたことに塚本茂画伯のアトリエで描かれたという水彩画が同封されていました。

「小学5、6年の頃、週に一回位はあのアトリエに行っていました」「あの頃はまだ小さい方達はお教えになっておらず、女学生だけがフランス帰りで少し身体をこわしていらした先生の生徒でした」と手紙にあります。水彩画の右上に塚本茂画伯の手で「昭和十三年九月廿五日 高瀬弥栄子」と達筆に書かれており、裏面には「先生が弥栄子と父弥一の弥をとって書かれた 5年 高瀬八重子」とあります。吉川八重子さんが83年もの間、大事に手元に置かれていた小学生の時の水彩画をお送りいただいたことに驚き、とても嬉しく思っています。

実は自分も72年前、6歳の時に同じアトリエで描いた「にわとり」のクレヨン画を今でも持っています。吉川さんと同じ名前(八重子)の母が長いこと額の中に入れておいたもので、なにか不思議なものを感じます。(たけうち ひろや)

鵠沼雑記（五）

古志 秋彦

江ノ電の藤沢から鵠沼までの間に、いまは石上、柳小路の二つの駅があるが、昔はそれぞれの駅の間にも駅があつて、柳小路と鵠沼の間にあつたのが「藤ヶ谷」という駅である。車掌は「藤ヶ谷、藤ヶ谷、高瀬邸前」とアナウンスしたという。その藤ヶ谷の「高瀬邸に集まった俊秀たち」のことを書いてみたい。

明治三十五年（一九〇二年）九月「藤沢－江の島」間に江ノ電が開通して間もないころ、貿易商の高瀬三郎という人が、この辺りの山林二万坪を買って、そこに土地の人から「高瀬御殿」と呼ばれるほどの豪壮な家を建てた。後年、といつても明治末期の事だが、この高瀬邸を訪ねた谷崎潤一郎は次のように書いている。

「今は江ノ電と云つてゐるが、当時は何と云つてゐたか、その頃は、小田急電車はなく、単線のこの電車一本だけが淋しい鵠沼の松林の中をトボトボと走つてゐたが、それを鵠沼の停留場の一つ手前あたりの、一層淋しい人気のない所で下りて、左手の小高い砂山の丘のほうへ五六丁も登って行くと、そこに一軒の不思議な家があつた。今はあの辺はどうなつてゐるか知れないが、その時分は電車を下りてからその家まで行き着くまでは、一軒の家もない。一面の松林の中に細い小径が通じてゐただけである」（『若き日の和辻哲郎』）

谷崎が訪ねた相手、和辻哲郎は当時この高瀬邸の離れに住んでいた。広い邸内には数軒の離れがあつて、それぞれが二間程度の一軒家だった。和辻のほかにも、のちに安倍能成、阿部次郎、中勘助、茅野蕭々・雅子夫妻らが高瀬邸の離れに住んだ。それは後述するとして、母屋の鵠沼御殿について、三郎の孫にあたる高瀬笑子^{えみこ}さん（ミネソタ大学名誉教授）の文から引用する。笑子さんは現在八十五歳になられるが、いまや藤ヶ谷の高瀬邸を記憶している唯一の人である。（以下敬称略）

「藤ヶ谷の家は豪邸で祖父の好みをよく表していた。二万坪の邸内の母屋は大きく、離れの建物もそれぞれ立派な一軒の家であり、母屋の前の庭につづき、松山や梅林があり、また茶畑や野菜畑もあつた。江ノ電に沿って柳小路の方の一角は広い桃畑であつた。」

「門に向つて右に待合所、左に門番所があり広い砂利道をだらだら上ると、大きな威圧する様な立派な冠木門があつた。自分が子供だったからよけいに大

きく思われただろうが、母屋は和風の広い客室、天井の高い広い建物、畳を敷き詰めた一間廊下、大きな食堂テーブル、二十脚の椅子などをぼんやり覚えている。祖父の全盛時代には和洋それぞれのコックもいて、外国のお客様も多かったそうである。」
(『鵠沼断想』)

また、谷崎も前出の文章のあとに「家は非常に天井の高い、十五六畳も敷けそうな広間になってゐて、西洋館に畳を敷いたやうな建物であった」と書いている。

＊

高瀬三郎は鎌倉在の出で東大医学部の前身の開成学校に学んだが、学資が続かず途中で貿易商に転じ財をなした。横浜の本宅のほかに鎌倉由比ヶ浜に別荘を持っていた。ところが明治三十五年ころ、三郎は事業に失敗して本宅も別荘も売り払い、鵠沼に土地を求め引退してしまった。三郎は江ノ電にも多少関係していたから、当時は家が一軒もない松林の砂丘地帯ではあったが、藤ヶ谷に土地勘はあったのだろう。

この三郎の長男が高瀬弥一で、笑子さんの父である。神中（神奈川県立第一中学）から一高（第一高等学校）に進んだ。この一高で和辻哲郎は弥一の同級生であった。弥一は東大法学部を卒業、学士入学して文学部国文科に学んだ。哲郎は哲学科に進んで倫理学を専攻した。その卒業にあたって弥一は和辻に「卒業論文を書くなら屋敷の離れを使つてはどうか」と勧めた。こうして明治四十四年十一月から哲郎は高瀬邸の離れに滞在した。親友の谷崎潤一郎が訪ねてきたのは間もなくで、当時、谷崎は鵠沼の東屋で『悪魔』を執筆中だった。

哲郎は翌年三月まで滞在して卒業論文を書きあげた。この卒論が完成に近づいたころ、和辻は高瀬三郎の長女で弥一の妹にあたる^{てる}照に求婚する。二人は明治四十五年六月に結婚、東京大森に新居を構えた。翌年、長女京子が生まれ、一歳七か月のかわいい盛りになった大正四年秋、三郎は照たちに高瀬邸の離れに住むよう勧めた。哲郎の著書『ゼエレン・キエルケゴオル』と、訳書『ニイチェ書簡集』は、こうして鵠沼の松林のなかの離れで生まれた。

この離れの北側に大きな砂山があった。京子は毎日のように砂山に上って遊んだ。照の回想記――

「行く手に相当高く、視野一ぱいに拡がって、馬の背のような形に、灰色の砂丘が立っていた。その可成り急な斜面を登って行くと、一足ごとに足が砂にめり込んで、あたりの砂がサラサラと崩れた。うっかりすると深く履物を取られて見付からなくなるので、いつも草履や下駄は脱いで片手にぶら下げ、跣にな

って登った。

ひやりとした砂の足ざわりは気持がよかった。京子は坂の途中でわざと転んで、ころころと斜面をころがり落ちるのを面白がった。」(『和辻哲郎と共に』)

細やかな描写は実際に体験した人でなければ書けないリアリティをもっている。鵜沼にはいくつも大きな砂丘があったので、このように子供たちが砂山で遊ぶ光景は、戦前なら普通に見られたものであった。

安倍能成もまた、妻恭子と長男^{まこと}亮を伴って、高瀬邸の離れに来た一人だった。大正五年（一九一六年）三月のことで、それから二年間、和辻と安倍は鵜沼時代を共有することになる。照の回想記のつづき――

「この京子の『砂ころがり』が、安倍能成おじ様を鵜沼に引き寄せることになった。同い年の亮ちゃんをそんな風に愉快地活発にお育てになりたいと思われたらしい」

能成の一高時代の同級生で『銀の匙』の作者、中勘助もまた別の離れを借りて大正五年のひと夏を過ごした。勘助が亮を背負って

「恭子さんとあまり遠くない川のはうへ散歩したり、旅館のあるはうへ駄菓子を買いにいったりした。恭子さんも私も駄菓子が好きなのだ。そんな時おぶって歩くと揺籃と同じ効果があるのかちきに眠った」(『亮ちゃんの思ひ出』)と回想している。勘助と恭子の間には淡い気持ちの交流が感じられる。それが人々の噂になって、勘助は高瀬邸を出て鵜沼海岸の借家に住んだ。亮は一高から東大数学科に進み、将来を嘱望されたが、若くして亡くなった。

茅野蕭々・雅子夫妻も、長女の療養のため高瀬邸でひと夏を過ごした。雅子を訪ねて与謝野晶子も時々やってきたという。山川登美子と三人は「明星」で才をきそう仲だった。

＊

和辻哲郎が藤ヶ谷の高瀬邸で卒論を書いたのち、阿部次郎がやってきて、別の離れを借りて著作に励んだ。阿部は妻と子を東京に残して、仕事に集中するため高瀬邸に籠ったのであった。大正三年四月か五月の初めのことで、この鵜沼生活は翌年の五月まで一年余り続くことになる。もっとも、東京に講師としての仕事もあって、籠りきりになることはできず、しばしば上京しなければならなかった。

このときの仕事が『三太郎の日記』第二部となった。そこには和辻夫人となった照に対する特別な思いがうかがわれる。それが、のちに京都の事件を経て、和辻と阿部の決定的な不和となるのだが、この鵜沼のころは、まだ穏やかに月日が

流れていた。

和辻か阿部のどちらかの離れに、岩波茂雄も訪れた。岩波書店から、阿部次郎が主宰する雑誌「思潮」を刊行する計画が進んでいたからである。これは岩波として初めての雑誌発行だった。

阿部次郎の大正六年四月二十一日の日記――

「雑誌の名を『思潮』とし、同人を^{こしら}へることにす。安倍、小宮〔豊隆〕、和辻。小山〔東助〕を問題とする。――夜とまる。照さんと三人にて一時過ぎまで起きてゐる」とある。

鶴沼の松林で産声をあげた「思潮」は当時の思想界に新風を巻き起こした。和辻の「古寺巡礼」も大正七年八月から「思潮」に連載されている。しかし、それは二年足らずで、阿部の外遊のために終刊となり、それを受けつぐように大正十年十月には「思想」が岩波書店から発行された。そしてその主幹には和辻哲郎が迎えられた。のちに林達夫や野呂栄太郎ら鶴沼に縁のある人々が協力し、この雑誌を母体として野呂の不朽の名著『日本資本主義発達史』が生まれるのだが、それはまた稿を改めることにする。

高瀬三郎には長男弥一、長女照のほか四人の娘がいた。みな当時としては高等教育をうけて、津田や女子大に行っていた。三郎の妻、つまり笑子の祖母キクは弥一の学友を歓待した。この家の知的で明るい雰囲気惹かれて、いつも若い学生が広い高瀬邸の「サロン」に集まっていた。東大で法学を教えていたドイツ人のテオドル・シュテルンベルヒも時々来ていたと笑子さんはいう。

この弥一の広い交友関係がものをいって、照が和辻哲郎に嫁いだほか、二女千代は坂^{ばん}順三（三井鉱山役員）に、三女喜美は窪田忠彦（東北大学教授・数学者）に、四女松は矢代幸雄（美術評論家）に嫁いだ。笑子さんは「叔母と一緒に、汽車で来る矢代幸雄を迎えに、藤沢の駅まで歩いて行った。また夕方、見送りに行ったので『ポッポのオジチャマ』と呼んでいた」という（松はのちに離婚した）。林達夫（思想家）の夫人となったのが五女芳であった。

編集注：古志秋彦（こし あきひこ）は故会長伊藤聖さんの詩人としてのペンネーム。本稿は第3次『同時代』第14号（2003年6月号）に掲載された。高瀬家については『鶴沼』89号「鶴沼と高瀬家の百年」に詳しい。



酢は鎌倉（第 0048 話）

渡部 暲

酢は鎌倉？

戦前の地理教育は、「物産地理」といって、各地の物産を丸暗記するという認識があった。これはその頃のなぞなぞ。

「酒は灘。醤油は野田。それでは酢は？」 …正解は「すは鎌倉」

近年は「いざ鎌倉」ということが多いようだが、かつては「すは鎌倉」の方が普通だった。

「すべての道はローマに通ず」の時代から、中央集権を目指す政権は、支配領域の隅々と中央を結ぶ交通網の整備に力を注いだ。

鎌倉幕府もその例外ではなく、先ず関東一円と鎌倉を結ぶ「上道(かみつみち)」「中道(なかつみち)」「下道(しもつみち)」と呼ばれる鎌倉街道を整備したことが知られている。

鶺鴒の鎌倉道

鎌倉の上方(かみがた)側の出入口に当たる鶺鴒は、とりわけ交通量の多い重要なルートが通っていた。

それは鶺鴒のどの辺を通っていたのだろうか。

それを想定するには、当時の地形を想定しておく必要がある。

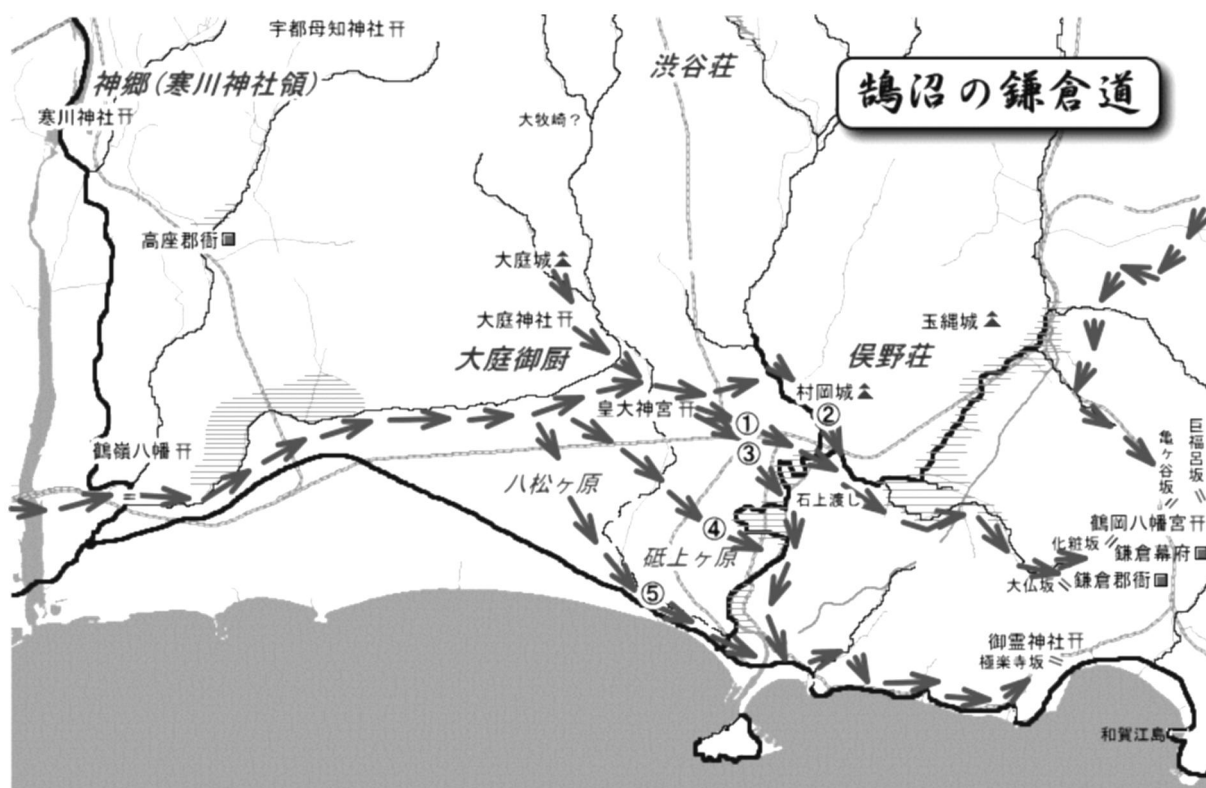
おそらく当時の相模川は、現在の小出川あたりまで、1.5km ほど東に曲流していた。茅ヶ崎付近の海岸線は、今より 3km ほど北にあったと思われる。引地川の流路は、西流して現在の千ノ川の流路を流れていたか、現在の流路に近い鶺鴒と辻堂の間を自由蛇行し、下流部は東流して固瀬川に流入していたとも考えられる。川袋あたりには古鶺鴒湖の名残の広大な湿原が展開し、ハクチョウの越冬地やシギが群れる姿が見られたに違いない。柏尾川流域にも深沢の湿原が広がっていた。

鎌倉七口のうち、上方方向に通ずるのは、化粧(けわい)坂、大仏坂、極楽寺坂である。また、少し回り道だが亀ヶ谷坂、巨福呂坂もあり、こちらがメインルートとも考えられる。

鎌倉時代の東海道は、相模川以东は現在の東海道とほぼ同一ルートと思われ、

鎌倉に向かうには

1. 引地あたりから「中学通り(湘南高校北側の道)を現在の藤沢駅付近から県道32号を大仏坂に向かうルート、すなわち鵜沼の北辺を辿る道が考えられるが深沢の湿地帯がどの程度のものであったかが問題になる。
2. 東海道をさらに進んで、藤沢(当時ほどの程度の集落があったか不明)付近で当時音無川と呼ばれていた境川を渡って右折し、固瀬川左岸を固瀬に向かうルート。これは鵜沼を通らない。
3. 1のルートが小田急と交差した六本松から南下し、一本松踏切あたりから新田を経て石上の渡しに向かうルートで、鎌倉時代後半には、最も一般的なルートだったと考えられる。
4. 羽鳥付近で東海道から分かれ、辻堂から南東に向かい、本鵜沼駅付近から川袋湿原の南側の砂丘を通り、藤ヶ谷で固瀬川を徒渡りするルートで、西行が鵜立沢の歌を詠んだと思われる道。
5. 4のルートを南下し、海岸に出て海沿いを辿り、河口付近で固瀬川を渡るルートで、鴨長明が通ったと思われる道などが考えられる。



鵜沼の鎌倉道

山本橋 (第 0105 話)

石上の渡し

片瀬川の渡河は、鴨長明の歌「浦近き砥上ヶ原に駒止めて固瀬の川の潮干をぞ待」で知られるように、鎌倉時代初期には、下流部で潮干を待って乗馬あるいは徒(かち)渡りをしていたと思われるが、鎌倉幕府への往来が活発化すると、川袋大曲流の上流側に砥上の渡し場が設けられたと思われる。皇国地誌によると、天正期には片瀬川砥上渡しが石上渡しと呼ばれるようになったという。

江戸後期に描かれた『江嶋道見取繪圖』には、石上村の様子も描き込まれており、そこには「船橋」と書かれているが、船橋の様子は描かれていない。

「山本橋」の架橋

1873(明治 6)年 6 月 2 日、鎌倉道片瀬川の渡船を廃止し、架橋することについて神奈川県より大蔵省へ伺いが出された。これがどういう経緯で提出され、どのような形で許可が出たのかは詳らかでないが、早くも同年 10 月には片瀬村の名家=山本家が架橋し、「山本橋」と名付けられた。

後に下流の山本家近くに「山本橋」が架橋された際(架橋の時点がいつかは調べが付いていない。1902(明治 35)年に江ノ電が開通した際、「山本橋」停車場が開業しているから、それ以前であることは確かだ)に、「上山本橋」と改名した。

『皇国地誌村誌相模国高座郡鵠沼村』にはこうある。

山本橋 鎌倉府ノ頃武蔵国八王子駅ヨリ府ヘノ往来渡リニシテ天正年間マテハ砥上渡リト唱ヒシヲイツノ頃ヨリカ石神渡リトナリシヲ明治六年片瀬村ノ農山本某ノ発明ニシテ架梁トナスサレハ其旧名ヲ襲フテ砥上橋トコソアルベキニ山本橋ト標セルハ惜ムベシ橋ノ稍西ニ今仍老松二株アリ渡リナリシサマ著ルシ中央ヨリ東南東字石神(土耳[甘]砥上ナリ)ニアリ片瀬川ニ架シ鎌倉郡片瀬村ヘ通シ江島往来トス長十七間幅貳間半木製ニシテ修繕ハ本村片瀬両村ノ民費トス

『皇国地誌村誌相模国鎌倉郡片瀬村』にはこうある。

山本橋 三等往還藤沢駅ヨリ江ノ島鎌倉通ニ架リ村ノ北方片瀬川ノ上流ニアリ本村ヨリ鵠沼村エ通ス水量三尺橋間長二十三間巾二間ノ木製ニシテ山本庄太郎自費修造ス

両者で橋の長さとの幅の数値が食い違っている。明治末期に編まれた『鎌倉郡川口村 史跡勝地古墳取調書』に「旧クハ藤澤ヨリノ往還ニ船渡アリ、石上渡ト唱へ、当村ト鵠沼トノ持ナリシカ、後明治六年十月片瀬ノ豪農山本庄太郎私費ヲ以テ巾貳間半、長廿三間ノ木橋ヲ架シ、橋銭ヲ徴収セシモ、其後明治三十三年ヨリ縣費

ヲ以テ架橋スルニ至レリ」とあり山本庄太郎が架橋した初代山本橋は、長さは『皇国地誌片瀬村』の二十三間、幅は『皇国地誌鵜沼村』の貳間半と合致している。

いずれにせよ、この橋は私人が架橋したものであり、「橋銭ヲ徴収」していたのだが、1900(明治33)年「縣費ヲ以テ架橋スル」ことになったので、無料化されたのだろう。

面白いのは『皇国地誌村誌相模国高座郡鵜沼村』に「サレハ其旧名ヲ襲フテ砥上橋トコソアルベキニ山本橋ト標セルハ惜ムベシ」と、客観的であるべき地誌書に、主観を交えた記述が見られることである。それならば、「縣費ヲ以テ架橋スル」ことになった際に「砥上橋」とでもすべきところを「上山本橋」の名になったことは不思議である。

一等國道東海道（第0108話）

東海道を一等國道に制定

鵜沼村の北辺は、東海道によって区切られていた。この東海道筋がいつ頃から現在認識されている位置に固定化されたかは詳らかではないが、律令時代、都と坂東を結ぶ地域が「東海道」という名称の行政区画として成立した。この頃の主要街道は、足柄峠を越え、関本に至る。元々足柄路は「東海道」の本筋であった。800年頃、富士山の噴火によって足柄が通行不能になって「箱根路」が拓かれると「東海道矢倉沢往還」と称されるようになった。しかし箱根路は急峻なため、足柄路が復興されると、中世までは矢倉沢往還が主要な街道筋であった。鎌倉時代になると、東海道は都と鎌倉を結ぶルートとして重要になるが、この時代の経路については、第0048話で考察しておいた。鎌倉時代の初期までは、大庭御厨鵜沼郷と称していた範囲の北辺が、第0048話で考察した①のルートになったのではないかと私は見ている。

後北条の支配下では、玉縄城を結ぶルートが重要になったと思われる。

徳川家康が1590(天正18)年に江戸に入城する。この頃の平塚と江戸の間は、中原街道が実質の東海道として機能しており、徳川家康もここを往来していた。徳川家康は、1601(慶長6)年に「五街道整備」により、五つの街道と「宿(しゅく)」を制定し、道としての「東海道」が誕生する。日本橋(江戸)から三条大橋(京都)に至る宿駅は、53箇所であり、いわゆる東海道五十三次である。又、箱根と新居に関所を設けた。その後、1603(慶長8)年には、東海道松並木や一里塚を整備する。

東海道が整備され、藤澤宿が設置されると、1694(元禄 7)年 9 月、鵜沼村他 43 か村が藤澤宿の助郷（すけごう）村に確定した。東海道筋には引地・車田の集落が往来する旅人のための茶店や名産店が並ぶ街村として成立した。引地川には土橋「引地橋」が掛かっており、出水のたびに壊れたので、1786(天明 6)年閏 10 月、その普請を稲荷・大庭・羽鳥各村とともに請け負うことになった[引地橋組合儀定証文之事]。引地橋の東詰には「鍵の手(クランク状街路)」が設けられ、藤澤宿の西の防備線となっていた。

1872(明治 5)年 7 月 20 日、「諸道伝馬所廃止人馬相對を以斷立しむ」という太政官布告第 204 号が出されて、助郷村の負担から解放された。

1876(明治 9)年の「太政官達第 60 号(道路ノ等級ヲ廢シ國道縣道里道ヲ定ム)」にて國道、縣道、里道が指定される。(道路を國道・縣道・里道のそれぞれ 1 等 -3 等に分類する等級制で、現在の番号による分け方ではない)。その後、国道の等級は、1885 年 1 月 6 日の「太政官布達第 1 号(國道ノ等級ヲ廢シ其幅員ヲ定ム)」により廃止された。

1885(明治 18)年 2 月 24 日、「内務省告示第 6 号(國道表)」にて、國道路線が番号を付与、指定される。「國道 1 號(東京ヨリ横濱ニ達スル路線)」、「國道 2 號(同(東京ヨリ)大坂港ニ達スル路線)」となった結果、國道 2 號と改称された。

1920(大正 9)年 4 月 1 日、道路法に基づく「路線認定」が施行され、国道番号の順は、1 番目が東京から神宮に達する路線、2 番目が東京から各府県庁所在地に達する路線の順とされる。(現在の国道 1 号に相当するルートは、「國道 1 號(東京市ヨリ神宮ニ達スル路線)」、「國道 2 號(東京市ヨリ鹿兒島縣廳所在地ニ達スル路線(甲))」となる)。

1952(昭和 27)年 12 月 4 日、新道路法に基づく「路線指定」で、東京都中央区 - 大阪府大阪市北区間の「一級国道 1 号」として指定される。

1963(昭和 38)年 3 月、藤沢バイパス開通に伴い、国道 1 号であった旧東海道部分(白旗交差点 - 羽鳥交差点間)が、神奈川県道 43 号藤沢厚木線に降格となる。なお、藤沢バイパスは、1965(昭和 40)年 4 月 1 日、道路法改正によって一級・二級の別がなくなり「一般国道 1 号」となった。

引地と車田

この旧東海道を境に南側が鵜沼村ということになるが、街道に沿った西側が引地、東側が車田という集落名になっている。引地・車田の境界線については、その

線引きに諸説がある。一般的には現在の鵠沼神明四丁目と五丁目の境界線だが、もう一本西の道路だという説もある。いずれにせよ小字制定時には引地に統合され、さらに南側の内田と合わせる小字も用いられたようだ。

引地の地名は、「皇国地誌」の記述「湯桶口ヨリ赤羽根村へ落室田高田円蔵ヲ経茅ヶ崎ヨリ海ニ入シカ廃城トナリシ後各村ニテ彼湖開墾ノ際更ニ山脈へ流大庭ヨリ直チニ本村へ疏通シ海へ流セシモノ故ニ引地川ト称ス」にあるように、河川名が先にあり、それによって集落名ができたようである。

車田の地名の由来については、川上恵久氏は次の4説を紹介している。

○伊勢神宮に納める米を作った田で車の輪のように順番に廻り作りをしたためという説。

○昔の引地川が度々流れを変えたため車の輪のように田が移り変わったという説。

○小栗判官を乗せた手車を作ったところだからという伝説。

○廓があつたので廓田といい、それが車田になったという説。

小字引地の明治初期の住人は、「本村」9集落と共通する關根・浅場・斉藤・宮崎・森井といった姓も見られるが、榎本など、本村と共通しない姓も散見する。これは、引地が完全な出村ではなく、外部出身者もかなり見られたことを意味する。かつては皇大神宮の氏子集落だったというが、人形山車は持っていない。現在は、引地橋の普請を引き受けた稲荷・大庭・羽鳥各村とともに羽鳥の八坂神社の氏子集落として、引地独自の神輿を出す。

道路開通式（第 0195 話）

鵠沼地内(上山本橋～石上～鵠沼停留所～海岸)の道路開通式高瀬邸内で開催

『藤沢市史年表』の1917(大正 6)年4月に「藤沢町、別荘地内の道路新設と修築工事完成」とあり、さらに5月10日の項に次のような記述がある。

「鵠沼地内(上山本橋～石上～鵠沼停留所～海岸)の道路開通式高瀬邸内で開催」

このルートはおおよそ見当がつく。

「石上」がどのポイントかに若干問題があるが、1873(明治 6)年6月2日、鎌倉道片瀬川の渡船を廃止し、架橋することについて神奈川県より大蔵省へ伺いが出され、同年10月には片瀬村の名家=山本家が架橋し、「山本橋」と名付けられた。これが江之島電気鐵道開通以前に下流に新しい「山本橋」が架橋されたこと

により、「上山本橋」と改称された次第については、第 0105 話で述べた。

ここ(当時は鎌倉郡川口村だった)を出発点に、現在の鵜沼石上 3-3 の三叉路(これが「石上」だろう)を左折して、江之島電気鐵道発電所の脇を通り、川袋停車場から江之島電気鐵道に沿って藤ヶ谷停車場と鵜沼停車場の中間で線路から離れて賀来神社脇を過ぎ、「海岸通り」を南に向かい、大曲の辻で右折し、東仲通りを通って海岸に出るルートである。

このルートは全く新たに道路を敷設したわけではない。恐らく人力車用の道路を拡幅して、自動車が走れるようにしたものと思われる。ことに川袋から藤ヶ谷の間、江之島電気鐵道に沿う部分は、線路と道路が並行するのではなく、路面電車になっていたのではあるまいか。

1917(大正 6)年という、鵜沼海岸別荘地開発が完成期を迎えていたが、明治中期、不毛の砂原に道路網を敷設し松樹を植えて始まった日本初の大型別荘地分譲は、人力車の時代だった。従って、この道路網は人力車用道路に過ぎなかった。これは、今日に至るも根本的には改善されていない。従って鵜沼松が岡は市内で最も災害に弱い地域に指定されている。踏切も狭く大型消防車が走れる道が限られているからである。

乗用車の実用化に大きなエポックをもたらしたのは、1907(明治 40)年の米国「ヘンリー・フォード社」が量産した「フォード・T型」だといわれる。これを輸入して、日本でも 1912(大正元)年にはタクシーの営業が始まる。

さて、次に問題になるのは、鵜沼のような片田舎に自動車が走れる道を造ろうとたくらんだのは誰かということである。年表 4 月の記載から考えられるのは、藤澤町だろうが、恐らくそれだけではないだろう。

解答は、この道路開通式が高瀬邸内で開催されたことにある。公共事業ならば、公的な場所で開通式が行われて当然であろう。私邸で行われることはあり得ない。

時は高瀬三郎没後 1 年ほどである。発想は三郎の生前だった可能性もあるが、高瀬彌一の実業家として最初の事業だったのではあるまいか。震災後、橘通から熊倉通りへ続く「高瀬通り」に名を残している彌一であるが、時代を先取りする事業家としての芽は、この段階で既に芽生えていたと考えられる。

(わたなべ りょう)

故渡部瞭『鵜沼を巡る千一話』の中から「交通関連」の項 第 0048/0105/0108/0195 話を取り上げた

「鵠沼を語る会」活動の記録

(令和2年12月～令和3年11月)

会誌120号製本

12月1日(火) 第3談話室 10時～13時

12月例会

12月8日(火) 10時～12時 第3談話室 14名出席

—会誌『鵠沼』120号配付

『お話』 134号線竜宮橋入口角の「精霊供養塔」について — 岡田哲明会員

12月運営委員会

12月15日(火) 10時～12時 第1談話室 5名出席

1月例会

1月12日(火) 10時～12時 新型コロナウイルス感染防止のため中止

1月運営委員会

1月26日(火) 10時～12時 新型コロナウイルス感染防止のため中止

2月例会

2月9日(火) 10時～12時 新型コロナウイルス感染防止のため中止

2月運営委員会

2月23日(火) 10時～12時 新型コロナウイルス感染防止のため中止

3月例会

3月9日(火) 10時～12時 新型コロナウイルス感染防止のため中止

3月運営委員会

3月30日(火) 10時～12時 第1談話室 8名出席

4月例会

4月13日(火) 10時～12時 第3談話室 14名出席

— コロナ禍での年会費について検討。活動が十分にできないので割引案もあったが従来通り¥3,000を据え置き

— 会誌『鵠沼』第121号について 12月発行予定 記事募集

- 今年度活動について 公民館まつりが開催されれば展示参加の意向
- 4月1日より鵜沼郷土資料展示室で開催の『写真に見る 鵜沼南部の変遷』を見学は急遽、展示室の空調工事が行われたので翌月に延ばした

4月運営委員会

4月27日(火) 10時～12時 第1談話室 7名出席

第35回定期総会

5月11日(火) 10時～10時40分 文化活動室 15名出席(2名見学)

総会後、引き続き5月例会を開催、先月予定していた鵜沼郷土資料展示室で開催の『写真に見る 鵜沼南部の変遷』を内藤会員の説明で見学

鵜沼を語る会 第35回定期総会議事録

2021年5月11日(火) 10時～10時40分 文化活動室 15名出席

《定期総会》

司会進行：竹内広弥会員（事務局）

総会議長：有田裕一会長（会則第9条2に則り、総会議長は会長が務める）

資料：総会議案書、会則、会員名簿の3点を配付

第一議案 令和2年度事業報告（事務局より報告）

- 会誌『鵜沼』発行 第120号
- 会誌別冊『太平洋戦争 ― 語り継ぐ戦中戦後の記憶』特集号発行。
- 公民館まつりの展示 新型コロナ感染防止のため開催中止
- 会誌『鵜沼』創刊号～第120号のデータ（PDF）保存 貸出用CD用意
- 史跡めぐり 遊行寺見学、新型コロナ感染防止のため中止
- 新年会 新型コロナ感染防止のため中止
- コロナ禍にあり、例会は6回(7,8,9,10,11,12月)、運営委員会は7回だけの開催

第二議案 令和2年度収支決算報告及び会計監査報告（小池清志会計担当）

収入：58万3,817円 支出：8万7,142円 次年度繰越金：49万6,675円

支出の部の事業費はコロナ禍で事業活動が殆ど出来ず、会誌120号の用紙代(5,500円)のみ。特別号については、その他の提案での事業で経費(印刷・送

料3万1,640円)は予備費より支出

運営費については、例会開催の部屋が新型コロナ感染防止のため大部屋使用(人数制限)となり回数は半減したものの、逆に使用料がオーバーした。

続いて渡部かほり監査役から「令和2年度収支決算報告書並びに帳簿を監査し正確かつ適正と認めます」と、監査報告があった。

(第三～第五議案については議長の有田裕一会長より説明、提案がされた)

第三議案 令和3年度事業計画(案)

- 公民館まつり出展：鶴沼地区公民館まつりの開催の有無の決定を待って決定
- 史跡めぐり：昨年度中止となった「遊行寺見学」は候補のひとつ
- 楷の木その後について調査：記念植樹として楷の木を提供した中学校(第一・鶴沼・片瀬・六会中学、湘南学園)を訪れ、楷の木の生育状況、楷の木についての学内での継承の有無などを調べる。苗木購入の可能生が見つかったので、今後の記念植樹推進活動の再開を検討するためにも現況を調査
- 会誌制作第121号：今年度もコロナ禍にあり年2回の発行は難しい。12月に121号を発行予定
- その他：活動を進めてゆくなかで事業計画として相応なものと考えられるテーマが提案された場合、活動内容ならびに経費について検討し順次追加。経費は予備費より

第四議案 令和3年度収支予算(案)

コロナ禍にあっても通常活動できるとの前提で予算を立てた。コロナ感染の状況次第で事業活動は変動し、それに伴い決算額も異なる

第五議案 令和3年度役員(案)

会計担当は大川久会員が小池清志会員より引き継ぐ

会長(有田裕一会員)、監査役(渡部かほり会員)は留任、副会長は今年度も選任せず。

☆これらすべての議案は出席した全会員の拍手を以て承認された。

2021.05.11 (記・事務局 竹内広弥)

5月運営委員会

5月25日(火) 10時～12時 第1談話室

6名出席

6月例会

6月8日(火) 10時～12時 第3談話室 14名出席

司会進行：竹内広弥会員

- 今年度活動についてフリートーク
- 会誌『鵜沼』第121号の掲載候補記事の説明 公民館まつりの開催は未定
- 『楷の木』調査について、これまでの植樹された楷の木の写真などを入れた資料を配付。「楷の木プロジェクト」を立ち上げメンバーを募った。まずは苗木を寄贈した学校を訪問し現況を調査する。楷の木苗木を購入する(2本)

6月運営委員会

6月29日(火) 10時～12時 第1談話室 6名出席

7月例会

7月13日(火) 10時～12時 学習室① 13名出席

司会進行：渡部かほり会員

- 楷の木調査—訪問先の楷の木現状資料配布。参加者が調査の感想を述べた
- 会誌『鵜沼』第121号の原稿の集まり状況を説明
- 史跡めぐりについての提案を募った。龍口寺/浄智寺/鎌倉歴史文化博物館/円覚寺の案が出た。8月例会で小池清志会員が提案を絞ったものを提示する
《お話》 網野菊の『海辺』を刀根恵子会員が朗読。新しい試みで好評だった

7月運営委員会

7月27日(火) 10時～12時 第1談話室 6名出席

8月例会

8月10日(火) 10時～12時 第3談話室 15名出席

司会進行：大川久会員

- 秋の史跡めぐりについて 7月例会で会員より提案されたいくつかの訪問場所を小池会員が絞った3案について説明があり片瀬の龍口寺に決まった
- 会誌121号進捗状況について岡田哲明会員より説明があった
《お話》 内藤千代子『生い立ちの記』を刀根恵子会員が朗読
内藤千代子について知らない会員が多いので、資料を配り補足説明した

8月運営委員会

8月31日(火) 10時～12時 第1談話室 8名出席

9月例会

9月14日(火) 10時～12時 学習室① 17名出席

司会進行：田中雄一会員

― 秋の史跡めぐり 11月9日(火曜日 11月例会日を充てる) 小池清志会員
より説明、併せて申込書にて参加者募集。16名の参加申し込みがあった

― 会誌121号進捗状況(岡田会員) ― 楷の木プロジェクト補足(竹内会員)

《お話》「消え去った鵠沼弁―標準語との対比」 並木宏之会員

自作の資料を基に標準語がどのようにかわって鵠沼弁になったかを説明

9月運営委員会

9月28日(火) 10時～12時 第1談話室 9名出席

10月例会

10月12日(火) 10時～12時 第3談話室 13名出席

司会進行：刀根恵子会員

― 秋の史跡めぐりについて 参加申込〆切 参加者は16名

― 会誌121号 内容、作業スケジュールについて 印刷：11/25 製本：11/27

《お話》 志賀直哉『鵠沼行』 刀根恵子会員による朗読

10月運営委員会

10月26日(火) 10時～12時 第1談話室 8名出席

11月例会・秋の史跡めぐり

11月9日(火) 10時～12時半 片瀬・龍口寺をめぐる 荒天のため中止

会誌121号製本作業 11月27日 10時～ 第3談話室 10名参加予定

11月運営委員会

11月30日(火) 10時～12時 第1談話室 9名出席(予定)

〈会員〉 39名 2021年11月現在

入会：十代田知三・熊川博・田中雄一(2021.4.1) 並木宏之(2021.7.1)

貴田里砂(2021.9.1)

退会：井上かほる・西野賢二(2021.3.31)

物故：吉田敏平(2021.6) 中島明(2021.10.31)

編集後記

■今号の最終的な編集作業をしているときに、会員の中島明さんが10月31日に亡くなられたとの連絡がありました。最近体調が思わしくなく、会の集まりに参加されることはなく、ときたま鵜沼海岸商店街でお見掛けするだけでした。鵜沼を語る会では副会長、会計などを務め長年にわたり会の活動・発展にご尽力いただきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

■楷の木調査はプロジェクトチームで取り組み、楷の木植樹の現状調査をはじめ楷の木全般にわたる資料も入れ30ページ弱に纏めました。原稿の推敲を重ねるうちに「鵜沼にも楷の木を」と提唱し精魂を込めてこられた鈴木三男吉さんへの想いが一層強いものになりました。(弥)

■今年の総会時に新規入会し「楷の木」プロジェクト活動をしました。楷の木については東畑精一の「一卷の人」のコピーを頂き、詳細を知りました。そこで大いに興味を覚え、すぐに湯島聖堂や足利学校に行き立派に育った巨木をみてきました。今回調査した木も早くあのようになってほしいと思います。(田中)

■今年も昨年に引き続きコロナ禍で公民館まつりも中止となり多くのサークルの活動も活気を失ってしまった。そんななか、わが会は多くの新入会者を迎えることが出来、嬉しい限りである。その方たちの早速の寄稿もあり今号は70ページを超す大部となった。みなさん当会の発展に力を貸して頂きたい。(有田)

■鵜沼皇大神宮や白幡神社の祭礼で催される湯立神楽は、藤沢が鎌倉文化圏に属する証左であるが、鎌倉に無くて藤沢にあるもの、それは宗派の総本山と五重塔である。総本山は時宗の遊行寺に、五重塔は片瀬の龍口寺に有る。(K.K)

■最初のニエアルの碑の除幕式は中国紅十字会会長李徳全女史来日に合わせて挙行され、多数の参列者があったことが鵜沼郷土資料展示室にある福地誠一氏撮影の写真アルバムに収められています。(岡田)

■若き日の母の事を書かせて頂くに当たり、占領下の日本や当時の沖縄、ノースウエスト航空の歴史など、知らなかったことを調べる機会を得て、資料とひたいを突き合わす時間は本当に幸せでした。父も母もそんな私を空の上から見て笑っている気がします。(貴田)

■初めてのことで、本誌にふさわしい題材かどうか、と気になっています。歌舞伎にかかわりを持ちたくて始めた長唄ですが、これがズルズルと続き、いろいろあって現在、公民館サークル”湘南長唄同好会”に在籍しています。少人数ながら10月30日と12月11日に、市民会館に出演します。(そしろだ)

『鵜沼』 第 121 号
令和 3 (2021) 年 12 月 1 日発行

本誌の記事引用の際は
ご連絡ください

編集・発行 鵜沼を語る会
藤沢市鵜沼海岸 2-10-34
鵜沼公民館内
電話 0466-33-2002

URL <http://kugenuma.sakura.ne.jp/>